

電子ボーリングデータ作成要領（案）

平成 13 年 10 月

日本道路公団

目 次

1 . 適用	1
2 . フォルダ構成	2
3 . ファイル形式	4
4 . ファイル名の命名規則	5
5 . 電子ボーリングデータ作成支援システムの貸与について	7

別紙 1 電子ボーリングファイルのファイル形式（土質）

別紙 2 電子ボーリングファイルのファイル形式（岩盤）

別紙 3 電子ボーリングデータ作成支援システム（利用者マニュアル）

1 . 適用

- ・本要領は、土質地質調査における電子成果品を作成及び納品する際に摘要するものである。

【解 説】

成果品の電子納品については、「調査等業務の電子納品要領（案）」（以下「納品要領」という。）によるものとする。

本要領は納品要領に規定されている「JHフォルダー」のサブフォルダー（「JHBORING」）の内容を定めるものである。

納品する成果品は表 1 に示す3種類とする。

表 1 電子データの種類

No	名 称	概 要
1	土質データファイル	土質調査が行われたとき、その内容を格納するファイル
2	岩盤データファイル	岩盤調査が行われたとき、その内容を格納するファイル
3	コア写真画像ファイル	コア写真の画像ファイル

2. フォルダ構成

- ・電子データとして納品される成果品は、決められたフォルダ構成を作成して納品する。

【解 説】

電子データとして納品される成果品は、図 1 に示されるフォルダ構成とする。

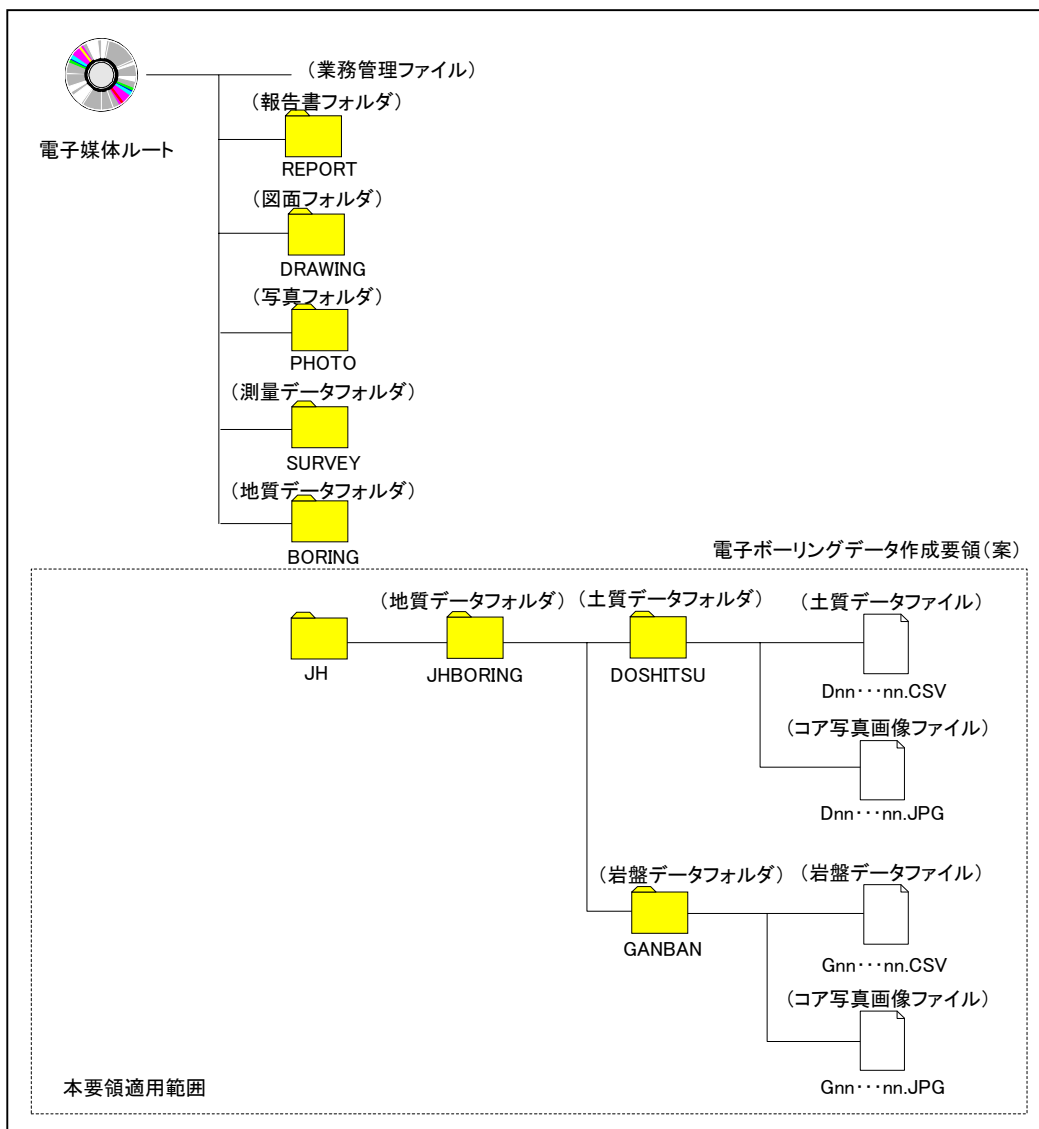


図 1 フォルダ構成

土質調査における土質データファイルは、「DOSHITSU」フォルダに格納する。

岩盤調査における岩盤データファイルは、「GANBAN」フォルダに格納する。

コア写真画像データファイルは、土質の場合「DOSHITSU」に、岩盤の場合「GANBAN」に格納する。

3 . ファイル形式

- ・ 電子ボーリングデータのファイル形式は、CSV 形式とする。
- ・ コア写真の画像データのファイル形式は、JPEG とする。

【解 説】

別紙 1、2 に、電子ボーリングデータファイルのファイル形式(データ項目、フォーマット)を示す。

コア写真画像データのファイル形式は、JPEG (有効画素数 8 0 万画素以上)とし、非圧縮あるいは圧縮率 1/8 までとする。

4 . ファイル名の命名規則

・電子ボーリングデータのファイル名は、契約番号と孔番を利用して命名するものとする。

【解 説】

電子ボーリングデータのファイル名は、土質・岩盤区分、日本道路公団が発行する契約番号に、ボーリングの孔番を付加したものとする。各調査業者は、業務契約時に日本道路公団から契約番号を取得する。その後、末尾に孔番を付加して電子ボーリングデータのファイル名とする。

電子ボーリングデータファイル名 (2 0 桁)

= 土質・岩盤区分 (1 桁)

+ 調査年 (西暦) の頭 3 桁 (3 桁) + 契約番号 (1 3 桁)

+ 孔番 (3 桁) + 拡張子 (.CSV)

【土質・岩盤区分】

土質 : D、岩盤 : G

孔番は固定長とし、2桁以下の時は右詰で空欄を「0」で埋めることとする。

ファイル名の付与例

・土質、調査年 : 1992 年、契約番号 : 2000022900001、孔番 : 001 のとき

ファイル名 : D1992000022900001001.CSV

・岩盤、調査年 : 1999 年、契約番号 : 9900023100551、孔番 : 231 のとき

ファイル名 : G1999900023100551231.CSV

【参考】

契約番号の最初の一桁は、調査年（西暦）の下一桁となっている。

すなわち、2001年の調査における契約番号は、全て2001の下一桁である「1」から始まる番号となっている。

よって、仮に契約番号に孔番を付けただけのファイル名とした場合、1991年と2001年のデータを区別することができない。

そこで、調査年（西暦）の頭3桁を契約番号につけることで、ユニークなファイル名として定義を行った。

コア写真の画像ファイル名は、土質・岩盤区分、日本道路公団が発行する契約番号に、ボーリングの孔番、さらに孔番ごとの連番を付加したものとする。各調査業者は、業務契約時に日本道路公団から契約番号を取得する。その後、末尾に孔番と連番を付加してコア写真の画像ファイル名とする。

コア写真画像ファイル名（23桁）

= 土質・岩盤区分（1桁）

+ 調査年（西暦）の頭3桁（3桁）+ 契約番号（13桁）

+ 孔番（3桁）+ 連番（3桁）+ 拡張子（.JPG）

【土質・岩盤区分】

土質：D、岩盤：G

孔番は固定長とし、2桁以下の時は右詰で空欄を「0」で埋めることとする。

ファイル名の付与例

- ・土質、調査年：1992年、契約番号：2000022900001、孔番：001、コア写真が3枚存在するとき

ファイル名：D1992000022900001001001.JPG

ファイル名：D1992000022900001001002.JPG

ファイル名：D1992000022900001001003.JPG

5 .電子ボーリングデータ作成支援システムの貸与について

- ・本要領で定義されているデータファイルの作成に関し、JH から調査業者宛てに「電子ボーリングデータ作成支援システム」を貸与する。

【解 説】

本要領に従ったデータの作成を支援する目的として、JH 試験研究所技術情報課が作成した「電子ボーリングデータ作成支援システム」及び「電子ボーリングデータ作成支援システム 利用者マニュアル(調査業者用)」の最新版を JH 監督員から調査業者宛てに貸与する。(必ずしもこのシステムを用いてデータ作成を行う義務は生じないが、納品データにおける品質を維持するためにシステムの利用を勧めるものである。)

別紙 1

電子ボーリングデータ作成要領（案）

電子ボーリングデータファイルのファイル形式
（土質）

平成 14 年 2 月

日本道路公団 試験研究所

1 . 一般的事項 [様式 1 (A)]

(1) 調査件名

成果物 (報告書) に書かれている件名を記入する。

バイパス土質調査 (その 2)

- ・ 記入に当たっては、記号等を省略しないこと。

(2) 調査場所

成果物 (報告書) に書かれている場所を記入する。

県 郡 町字

- ・ 道路調査や広域調査等で調査場所が複数の場合は “ / ” で区切り、複数の場所を記入する。

また、ST (KP) 上下線コードについては以下のように記入する。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

STA + R (または、L)

KP + R (または、L)

: ST1、KP1

: ST2、KP2

: STD、KPD

(: R のときは正の値、L のときは負の値、CL のときは値無し)

例 1 : 「 STA 250 + 10 CL 」 のとき

: 250 ST1

: 10 ST2

: STD

例 2 : 「 STA 100 + 10 R2.0 」 のとき

: 100 ST1

: 10 ST2

: 2.0 STD

例 3 : 「 STA 200 + 50 L3.0 」 のとき

: 200 ST1

: 50 ST2

: - 3.0 STD

上下線コードに関して、上り : 1、下り : 2、センターの場合は空

(3) 図面 (縮尺)

当該調査に成果物としてある図面の縮尺を記入する。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

(位置図)

1 / 5 0 0 0 0

(平面図)

1 / 1 0 0 0

- ・ボーリング地点を示す図面のことであり、位置図は案内図であり、平面図は配置図のことである。
- ・縮尺が不明の場合、又は図面が成果品として作成されていない場合は1桁目に“*”を記入する。
- ・数字は右詰め、用意された桁数に満たない場合は“0”で空カラムを埋める。

(4) 孔番 (省略)

本要領では省略可能とする。

(5) 整理番号 (省略)

本調査では省略可能とする。

(6) ボーリング ID

記入は半角の数字で行う。

ボーリング ID (19 桁) = 調査年 (西暦) の頭 3 桁 (3 桁) + 契約番号 (13 桁) + 孔番 (3 桁)

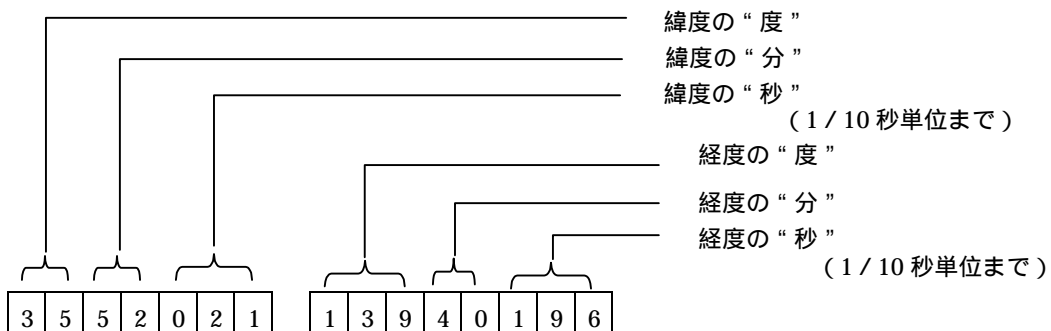
- ・例 調査年：1992 年、契約番号：2000022900001、孔番：001 のとき

ボーリング ID：1992000022900001001

(7) 位置

緯度・経度で表わし、最小読み取りを 1 / 10 秒までとする。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。



(8) 孔口標高

孔口標高を T.P. 表示とし, m 単位で表わし, 小数点以下 2 桁までとする。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

0	0	1	4	.	4	
---	---	---	---	---	---	--

・ 標高がプラスの場合は + 符号を省略するが, マイナスの場合は 1 桁目に - 符号を入れて標高を記入する。

・ 標高が不明の場合は 1 桁目に “ * ” を記入する。

・ 用意された桁に満たない場合は “ 0 ” で空きカラムを埋め, 小数点以下の上方が無い場合は空欄とする。

例えば標高が “ 14.4m ” と記載されている場合は, 例のように 7 桁目が空欄となる。

また, ある限られた区域の河川や港湾の工事等では, その地域に適した基準面が使用されていることもあるが, その場合, T.P. に換算する必要があるので, T.P. との関係を表 - 1 に示した。

表 - 1 特殊な基準面

基準面 ペール	読み方	意味	使用区分	東京湾平均海面 との関係 [m]	備考
A.P.	エーピー	アラカワペール	荒川, 中川, 多摩川, 東京	- 1.1344	大阪湾の O.P. と異なる
Y.P.	ワイピー	エドガワペール	江戸川, 利根川	- 0.8402	
O.P.	オーピー	オオサカペール	大阪湾, 淀川	- 1.3000	
K.P.	ケーピー	キタカミペール	北上川	- 0.8745	
S.P.	エスピー	シオガマペール	塩釜港, 鳴瀬川	- 0.0873	
O.P.	オーピー	オモノペール	雄物川	± 0.0000	
N.P.	エヌピー	ナゴヤペール	名古屋港	- 1.412	東京湾平均海面 荒川の A.P. と異なる
M.S.L.	エムエスエル	ミーンシーレベル	木曾川	± 0.0000	
A.P.	エーピー	不明	吉野川	- 0.8333	
T.P.	テーピー	トーキョーペール	東京湾	± 0.0000	

(9) 行政区域 (省略)

本要領では省略可能とする。

(10) ボーリングの方向等

地質の種類，掘進方向および方位からなる。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

地質の種類

柱状図から判断し，表 - 2 のコード表を用いる。

掘進方向

鉛直下方を 000 (度)，鉛直上方を 180 (度) とする。

方位

方位を真北からの時計回りの角度で表わす。北は 000 (度)，南は 180 (度) となる。ただし，掘進方向が 000 または 180 の時は方位の値を持たないので空欄とする。

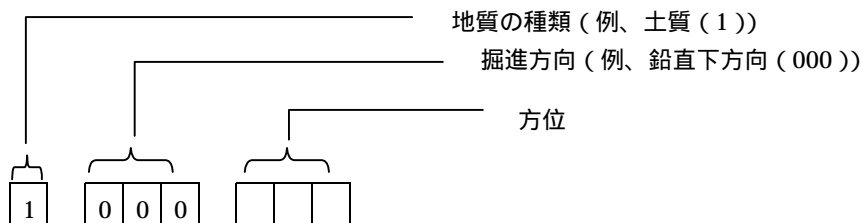


表 - 2 地質のコード

コード	種	類
1	土	質
2	岩	盤
3	土 質 + 岩	盤

(11) ハンマー用具・掘進長 (省略)

本要領では省略可能とする。

(12) 孔内水位

孔口からの深度を m 単位で表わし，小数点以下 2 桁までとする。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

0 0 4 . 9 5 (例，GL - 4.95m の場合 (004.95))

- ・用意した桁に満ない場合は“0”で空カラムを埋める。
- ・自噴等表現出来ない場合は記入しない。

(13) 室内試験内容 (省略)

本要領では省略可能とする。

(14) 原位置試験内容 (省略)

本要領では省略可能とする。

(15) 発注機関

柱状図に記載されている発注機関名をそのまま記入する。

日本道路公団

なお、中分類、小分類、細分類に関しては省略可能とする。

(16) 調査目的，調査対象（省略）

本要領では省略可能とする。

(17) 調査期間（省略）

本要領では省略可能とする。

(18) 受託者（省略）

本要領では省略可能とする。

(19) ボーリング名

柱状図に記載されているボーリング名をそのまま記入する。

ボーリング

(20) 調査開始日

調査開始の年月日を記入する。

記入は半角の数字で行う。

20000123（例 2000年1月23日）

(21) 調査終了日

調査終了の年月日を記入する。

記入は半角の数字で行う。

20000215（例 2000年2月15日）

(22) 調査業者電話番号

調査業者の電話番号を記入する。

03-1234-5678

記入は半角の数字、文字、記号で行い、市外局番等の区切りは半角のハイフン（-）とする。

(23) 主任技術者

本調査の主任技術者名を記入する。

山田太郎

(24) 現場代理人

本調査の現場代理人を記入する。

山田花子

(25) コア鑑定者

本調査のコア鑑定者名を記入する。

山田次郎

(26) ボーリング責任者

本調査のボーリング責任者を記入する。

山田三郎

(27) 試錐機

本調査で利用した試錐機を記入する。

機

(28) エンジン

本調査で利用したエンジンを記入する。

エンジン

(29) ポンプ

本業差で利用したポンプを記入する。

ポンプ

(30) 地盤勾配

水平は000(度), 鉛直は090(度)として、地盤勾配を記入する。

記入は半角の数字で行う。

30

(31) 総掘進長

記入は半角の数字で行う。

10.00

(32) 調査業者名

記入は全角の数字、文字、記号で行う。

「株式会社」は「(株)」、「有限会社」は「(有)」と記入する。

〔株〕 調査会社

(33) 孔番 (概要)

記入は半角および全角の数字、文字、記号で行う。

半角で8桁、全角で4桁以内。

孔番 1

2 . 柱状図 (地層区分) [様式 2 (B)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の (6) と同一コードを記入する。

(2) データ総数

地質として区分される地層の総数を記入する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	1	7
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、"0"で空カラムを埋める。

(3) データ番号

区分される地層番号で孔口から順次記入する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	0	1
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、"0"で空カラムを埋める。

(4) 地層・下限深度

区分される地層の下限深度を記入する。なお、単位はmで、小数点以下 2 桁まで表示する。

記入は半角の数字で行う。

10.00

(5) 地質コード

次の要領により 4 桁で表現する。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

頭 1 桁は、土地地盤、岩質地盤の区分を行うこととし、土砂地盤の場合は " 0 " を記入する。なお、岩質地盤については別途に定める。

土質については、第 1 分類によって記入し、必要に応じて第 2 分類を組合せる。

特殊土、玉石については、第 3 分類を用いる。

土質調査ボーリングについて岩着をみた場合、第 3 分類を用いる。なお、岩盤の 3 つのコード (091 , 092 , 093) で表現できない場合には、コード : 9999 (「分類名 : 岩盤」) を用いる。

互層については、第 1 分類コードの頭 1 桁の組合せで表現する。

現行の地質コードで表現できない場合 (コンクリート , 空洞等) には、コード : **** (「分類名 : 不明 , 表現不可」) を用いる。

第1分類			第2二分類			第3分類			
区分	分類名	コード	区分	分類名	コード	区分	分類名	コード	
土質材料	礫(G)	100	補助記号	砂質(S)	10	岩石材料	岩盤	硬岩(HR)	091
	礫質土(GF)	200		シルト質(M)	20		中硬岩(MR)	092	
	砂(S)	300		粘性質(C)	30		軟岩、風化岩(WR)	093	
	砂質土(SF)	400		有機質(O)	40		玉石(B)	094	
	シルト(M)	500		火山灰質(V)	50		特殊土材料	浮石(軽石)(Pm)	010
	粘性土(C)	600		玉石混り(-B)	1		シラス(Si)	020	
	有機質土(O)	700		砂利・礫混り(-G)	2		スコリア(Sc)	030	
	火山灰質粘性土(V)	800		砂混り(-S)	3		火山灰(VA)	040	
	高有機質土(腐植土)(Pt)	900		シルト混り(-M)	4		ローム(Lm)	050	
				粘土混り(-C)	5		黒ボク(Kb)	060	
		有機質土混り(-O)	6	マサ(WG)	070				
		火山灰混り(-V)	7	表土(SF)	000				
		貝殻混り(-Sh)	8	埋土(FI)	001				
				廃棄土(W)	002				

〔例〕 礫混り砂質シルト

0	5	1	2
---	---	---	---

有機質粘土

0	6	4	0
---	---	---	---

シルト混り礫

0	1	0	4
---	---	---	---

シルト質砂

0	3	2	0
---	---	---	---

貝殻混りシルト質砂

0	3	2	8
---	---	---	---

砂・粘性土互層

0	0	3	6
---	---	---	---

砂・粘性土互層

0	0	3	6
---	---	---	---

礫・シルト互層

0	0	1	5
---	---	---	---

} 互層の場合

(6) 地質名（土質分類：現場視察による分類）

柱状図に記載されている地質名をそのまま記入する。

シルト

(7) 地質名（土質分類：三角座標による分類）

柱状図に記載されている地質名をそのまま記入する。

粘土質ローム

(8) 地質名（土質分類：日本統一土質分類）

柱状図に記載されている地質名をそのまま記入する。

(S-M)

(9) 色調コード

色調は下記の色調コードの組合せで表現する。コードの記入は右詰で、桁数に満たない場合は“*”で
カラムを埋める。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

〔色調コード〕

色調	コード	色調	コード
黒	K	濃	N
褐	C	淡	L
赤	R	暗	D
橙	O	帯	B
黄	Y	雑	P
緑	M	斑	S
青	A		
紫	V		
灰	H		
白	W		

〔例〕 暗青灰

* D A H

褐灰

* * C H

(10) 色調名

柱状図に記載されている色調名をそのまま記入する。

青灰色

(11) 観察事項

柱状図に記載されている観察事項をそのまま記入する。

有機物混入、砂分混入

3. 標準貫入試験 [様式 3 (C)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の(6)と同一コードを記入する。

(2) データ総数

データシートの散逸を防ぐために、1 孔についてのデータ数を記入する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	1	7
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(3) データ番号

データ番号は、1 孔につき得られた試験値データの孔口からの順番（地表面より順次下方へ）を示す。

その最終番号はデータ総数と一致する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	0	1
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(4) N 値測定開始深度

孔口からの深度を m 単位で示す。表示は小数点以下 2 桁（cm）とする。

記入は半角の数字で行う。

0	1	0	.	0	0
---	---	---	---	---	---

(5) 打撃回数及び貫入長

打撃回数欄には 30cm 貫入するに要した打撃回数（N 値）を記載する。

記入は半角の数字で行う。

- ・打撃回数 N 値 50 以上の場合のみ、打撃回数と貫入長を記入するものとし、50 以下の場合には、打撃回数のみ記入する。
- ・「ロッド自沈」、あるいは「モンケン自沈」の場合は打撃回数欄に 00 を記入し、貫入欄にはその貫入長を記入する。もし、貫入長が不明の場合は貫入欄に “ * ” を記入する。
- ・岩着等により貫入不能の場合は打撃回数欄に “ 99 ” を記入する。
- ・打撃回数は 98 回までは原データのまま打撃回数欄に、そのときの貫入長を貫入長欄に記載し、99 回以上を示す場合は全て貫入不能とみなし 99 を記入し、貫入長欄は “ * ” を記入する。

(5) 10cm ごとの打撃回数及び貫入長

10cm、20cm、30cm 貫入するに要した打撃回数及び貫入長を記載する。

記入は半角の数字で行う。

4 . 土質試験 [様式 4 (D)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の(6)と同一コードを記入する。

(2) 試料番号

各資料に与えている番号を記入する。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

S-1

(3) 採取方法

試料採取方法を表 - 3 コードを用いて表わす。

記入は半角の数字で行う。

2

- ・ 試料の採取方法は、土質試験結果一覧表からはわからないが、当該土質調査の報告書を参照することとする。ここでは、固定ピストン式シンウォールサンプリングとして試料採取方法のコードは、表 - 3 より “ 2 ” を記入する。

表 - 3 試料採取方法のコード

コード	採取方法
1	標準貫入試験
2	シンウォールサンプラー
3	デニソンサンプラー
4	サンドサンプラー
5	その他の

(4) 採取深度

採取深度をm単位で表わし、小数点以下は2桁 (cm) とする。

記入は半角の数字で行う。

採取試料の上限深度

採取試料の下限深度

0 1 2 . 0 0

0 1 2 . 8 5 m

- ・ 基準は孔口を 0 とする。
- ・ 試料番号 6 の採取限度は、孔口を基準 (0m) として、12.00 ~ 12.85m である。

には浅い方の深度 12.00 を、には深い方の深度 12.85 を記入する。ただし、最上位の空きカラムには “ 0 ” を埋める。

(5) 粒度組成

礫，砂，シルト，粘土分の組成比を%単位で整数化して表わす。

記入は半角の数字で行う。

礫分の%	砂分の%											
シルト分の%	粘土分の%											
<table border="1"><tr><td>0</td><td>0</td></tr></table>	0	0	<table border="1"><tr><td>0</td><td>4</td></tr></table>	0	4	<table border="1"><tr><td>8</td><td>2</td></tr></table>	8	2	<table border="1"><tr><td>1</td><td>4</td></tr></table>	1	4	%
0	0											
0	4											
8	2											
1	4											

(6) 土粒子の比重

記入は半角の数字で行う。

2	.	6	5	2
---	---	---	---	---

・整数部 1 桁，小数点以下 3 桁の実数として表わす。

(7) 自然含水比

記入は半角の数字で行う。

0	0	5	2	.	2
---	---	---	---	---	---

・整数部 4 桁，小数点以下 1 桁の実数として表わす。(単位は%)

・自然含水比は 52.2% である。上位 2 桁は空きカラムになるので“00”を埋める。

(8) 湿潤密度

記入は半角の数字で行う。

1	.	6	6	8
---	---	---	---	---

 g/cm³

・整数部 1 桁，小数点以下 3 桁の実数として表わす。(単位は g/cm³)

(9) 間隙比

記入は半角の数字で行う。

1	.	4	2	0
---	---	---	---	---

・整数部 1 桁，小数点以下 3 桁の実数として表わす。

(10) 液性限界

記入は半角の数字で行う。

0	5	3	.	1
---	---	---	---	---

 %

・整数部 3 桁，小数点以下 1 桁の実数として表わす。(単位は%)

(11) 塑性限界

記入は半角の数字で行う。

0	2	6	.	7
---	---	---	---	---

 %

- ・整数部 3 桁，小数点以下 1 桁の実数として表わす。(単位は%)
- ・26.7%の場合、最上位の桁は空きカラムになるので“0”を埋める。
- ・有機質土の場合には，液性限度が 1000%をこえることも珍しくない。例えば，その液性限界が 1256.0%というような場合には

1	2	5	6	.	
---	---	---	---	---	--

 %

のように小数点の位置を下位にずらして記入するものとする。

(12) 一軸圧縮強度

記入は半角の数字で行う。

0	0	.	7	4
---	---	---	---	---

 kgf/c m²

- ・整数部 2 桁，小数点以下 2 桁の実数として表わす。(単位は kgf/c m²)
- ・空カラムは“0”を埋める。

(13) 破壊時の歪

記入は半角の数字で行う。

0	6	.	4
---	---	---	---

 %

- ・整数部 2 桁，小数点以下 1 桁の実数で表わす。単位は%
- ・空カラムは“0”を埋める。

(14) 三軸圧縮試験の試験条件

記入は半角の数字で行う。

1

- ・表 - 4 に示すコードで表わす。
- ・このケースは UU 試験となっているので表 - 4 から“1”を記入する。

表 - 4 三軸圧縮試験の試験条件のコード

コード	試験条件
1	UU
2	CU
3	CU
4	CD

(15) 粘着力

記入は半角の数字で行う。

0	0	.	3	4	0
---	---	---	---	---	---

 kgf/c m²

- ・整数部 2 桁，小数点以下 3 桁の実数で表わす。(単位は kgf/c m²)

(16) 内部摩擦角

記入は半角の数字で行う。

内部摩擦角の“度”

内部摩擦角の“分”

0	0	0	0
---	---	---	---

(17) 圧密降伏応力

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

0	2	.	4	1
---	---	---	---	---

 kgf/c m²

- ・整数部 2 桁，小数点以下 2 桁の実数で表わす。(単位は kgf/c m²)
- ・空きカラムは“0”を埋める。
- ・三軸圧縮試験の強度定数は表 - 5 を標準とする。(以下同じ)

表 - 5 三軸圧縮試験の強度定数の考え方

コード	試験条件	記入する強度定数
1	UU	Cuu , uu
2	CU	Ccu , cu
3	CU	C' , '
4	CD	Cd , d

(18) 圧縮指数

記入は半角の数字で行う。

0	.	4	2
---	---	---	---

- ・整数部 1 桁，小数点以下 2 桁の実数で表わす。

(19) 体積圧縮係数

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

基数部 1.0 ~ 9.9 の範囲 (単位は c m²/kgf)

浮動小数点表示を示す“E”

指数部+9 ~ -9 の範囲

2	.	1	E	-	2
---	---	---	---	---	---

 c m²/kgf

(20) 圧密係数

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

基数部 1.0 ~ 9.9 の範囲 (単位は cm^2/d)

浮動小数点表示を示す “E”

指数部+9 ~ -9 の範囲

2	.	1	E	-	2
---	---	---	---	---	---

cm^2/day

(21) せん断強さ

記入は半角の数字で行う。

1.00

(22) 鋭敏比

記入は半角の数字で行う。

2.0

(23) 飽和度

記入は半角の数字で行う。

10

(24) 土粒子の密度

記入は半角の数字で行う。

2.4

5 . 孔内載荷試験 [様式 5 (E1)] (省略)

本要領では省略可能とする。

6 . 現場透水試験 [様式 6 (E2)] (省略)

本要領では省略可能とする。

7 . P 波検層・S 波検層・・・〔様式 7 (E3)〕

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の(6)と同一コードを記入する。

(2) データ総数

データシートの散逸を防ぐために、1 孔についてのデータ数を記入する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0 1 7

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(3) 試験方法

試験方法は表 - 6 のコード表により表わす。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

1 0 (例, P 波検層 S 波検層)

表 - 6 P 波・S 波速度測定についてのコード

P 波速度測定についてのコード	
コード	測定方法
10	(P 波検層)
20	(音波検層など)
S 波速度測定についてのコード	
コード	測定方法
10	(S 波検層)
20	その他

(4) データ番号

データ番号は、1 孔につき得られた速度層区分データの孔口からの順番をしめす。

その最終値はデータ総数と一致する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0 0 1

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(5) 試験深度 - 上端

孔口からの深度を m 単位にしめす。表示は小数点以下 2 桁まで (cm) とする。この欄は必ず記入する。

記入は半角の数字で行う。

0 0 0 . 0 0 m

(6) 試験深度 - 下端

単位は試験深度 - 上端と同じである。通常この欄の記載があることが望ましいが、層区分が連続している（欠測区間がない）場合は空白としても良い。空白の場合は、次のデータ（データ番号が1だけ大きいデータ）の試験深度 - 上端と同じであると解釈する。ただし、最終データについてはこの欄の記載が必要である。

記入は半角の数字で行う。

0	1	2	.	0	0
---	---	---	---	---	---

 m

(7) 速度

速度はm / sec の単位で4桁の数字で表わす。

記入は半角の数字で行う。

0	1	2	0
---	---	---	---

 cm / sec

8 . 孔内水位 [様式 8 (Z)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の(6)と同一コードを記入する。

(2) データ総数

データシートの散逸を防ぐために、1 孔についてのデータ数を記入する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	1	7
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(3) データ番号

データ番号は、1 孔につき得られた孔内水位分データの孔口からの順番をしめす。

その最終値はデータ総数と一致する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	0	1
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(4) 孔内水位

孔口からの深度をm単位で表わし、小数点以下 2 桁までとする。

記入は半角の数字で行う。

0	0	4	.	9	5
---	---	---	---	---	---

 (例, GL - 4.95m の場合 (004.95))

- ・用意した桁に満たない場合は“0”で空カラムを埋める。
- ・自噴等表現出来ない場合は記入しない。

(5) 測定月日

孔内水位の測定月日を記入する。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

0	1	1	2
---	---	---	---

 (例, 1月12日の場合 (0112))

- ・用意した桁に満たない場合は“0”で空カラムを埋める。

9 . その他試験 [様式 9 (Y)]

(1) その他試験

その他試験に関することを、自由に記入することができます。

10. データフォーマット

〔様式1(A)〕一般的事項

“A”, “ボーリング ID”, “000”

“A”, “ボーリング ID”, “001”, “調査件名”, “孔番 (概要)”

“A”, “ボーリング ID”, “002”, “調査場所”, “図面縮尺 (位置図)”, “図面縮尺 (平面図)”, “孔番”, “整理番号”

“A”, “ボーリング ID”, “003”, “位置 (緯度)”, “位置 (経度)”, “孔口標高”, “行政区”, “地質”, “掘進方向”, “方位”, “ハンマーの落下用具”, “掘進長”, “孔内水位”, “室内試験内容”, “原位置試験内容”

“A”, “ボーリング ID”, “004”, “発注機関 (大分類)”, “発注機関 (中分類)”, “発注機関 (小分類)”, “発注機関 (細分類)”, “調査目的”, “調査対象”, “調査期間 (西暦年)”, “調査期間 (月)”, “受託者”

“A”, “ボーリング ID”, “A”, “調査位置 ST1”, “調査位置 ST2”, “調査位置 STD”, “調査位置 KP1”, “調査位置 KP2”, “調査位置 KPD”, “上下線コード”

“A”, “ボーリング ID”, “B”, “ボーリング名”, “調査開始日”, “調査終了日”, “調査業者電話番号”, “主任技術者”, “現場代理人”, “コア鑑定者”, “ボーリング責任者”, “試錐機”, “エンジン”, “ポンプ”, “地盤勾配”, “総掘進長”, “調査業者名”

〔様式2(B)〕柱状図 (地層区分)

“B”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”

本レコードは、様式2(B)データに対する先頭情報です。

様式2(B)にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“B”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “地層・下限深度 (m)”, “地質コード”, “地質名”, “色調コード”, “色調名”

... “NNN”

本レコードは、様式2(B)内のデータ総数分だけ作成します。

“地質名”, “色調名”は、入力せず半角の空白文字を満たします。

“B”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “A”, “下限深度 (m)”, “地質名 (現場分類)”, “地質名 (座標分類)”, “地質分類 (日本分類)”, “観察事項”

... “NNN”

本レコードは、様式2(B)内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式3(C)〕標準貫入試験

“C”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”

本レコードは、様式3(C)データに対する先頭情報です。

様式3(C)にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“C”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “N 値測定開始深度 (m)”, “打撃回数”, “貫入長”

... “NNN”

本レコードは、様式3(C)内のデータ総数分だけ作成します。

“C”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “A”, “N 値測定開始深度 (m)”, “10cm 打撃回数”, “10cm 貫入長”, “20cm 打撃回数”, “20cm 貫入長”, “30cm 打撃回数”, “30cm 貫入長”

... “NNN”

本レコードは、様式3(C)内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 4 (D)〕 土質試験

“D”, “ボーリング ID”, “000”, “試料総数”

本レコードは、様式 4 (D) データに対する先頭情報です。

様式 4 (D) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“D”, “ボーリング ID”, “B-01 (試料番号)”, “採取方法”, “上限深度”, “下限深度”, “レキ分”, “砂分”, “シルト分”, “粘土分”, “土粒子の比重”, “自然含水比 (%)”, “湿潤密度”, “間隙比”, “液性限界”, “塑性限界”, “一軸圧縮強度”, “破壊時の歪”, “試験条件”, “粘着力”, “内部摩擦角 (度)”, “内部摩擦角 (分)”, “圧密降伏応力”, “圧縮指数”, “体積圧縮指数”, “圧密係数”

... “NNN”

本レコードは、様式 4 (D) 内の試料総数分だけ作成します。

“D”, “ボーリング ID”, “B-01 (試料番号)”, “A”, “せん断強度”, “飽和度”, “鋭敏比”, “土粒子の密度”

... “NNN”

本レコードは、様式 4 (D) 内の試料総数分だけ作成します。

〔様式 5 (E1)〕 孔内載荷試験

“E”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”, “試験方法”

本レコードは、様式 5 (E1) データに対する先頭情報です。

様式 5 (E1) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“E”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “試験深度 (m)”, “初期圧 (kgf/cm²)”, “降伏圧 (kgf/cm²)”, “変形数 (kgf/cm²)”

... “NNN”

本レコードは、様式 5 (E1) 内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 6 (E2)〕 現場透水試験

“F”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”, “試験方法”

本レコードは、様式 6 (E2) データに対する先頭情報です。

様式 6 (E2) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“F”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “試験深度 - 上端 (m)”, “試験深度 - 下端 (m)”, “透水係数”

... “NNN”

本レコードは、様式 6 (E2) 内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 7 (E3)〕 P 波速度

“G”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”, “試験方法”

本レコードは、様式 7 (E3) データ内の P 波速度に対する先頭情報です。

様式 7 (E3) データ内の P 波速度のデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“G”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “試験深度 - 上端 (m)”, “試験深度 - 下端 (m)”, “速度 (m/s)”

... “NNN”

本レコードは、様式 7 (E3) 内の P 波速度データ総数分だけ作成します。

〔様式 7 (E3)〕 S 波速度

“H”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”, “試験方法”

本レコードは、様式 7 (E3) データ内の S 波速度に対する先頭情報です。

様式 7 (E3) データ内の S 波速度のデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“H”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “試験深度 - 上端 (m)”, “試験深度 - 下端 (m)”, “速度 (m/s)”

... “NNN”

本レコードは、様式 7 (E3) 内の S 波速度データ総数分だけ作成します。

〔様式 8 (Z)〕 孔内水位

“Z”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”

本レコードは、様式 8 (Z) データに対する先頭情報です。

様式 8 (Z) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“ Z ” , “ ボーリング ID ” , “ 001 (データ番号) ” , “ 孔内水位 ” , “ 測定月日 ”

〔様式 9 (Y)〕 その他試験
“ Y ” , “ ボーリング ID ” , “ その他試験 ”

サンプルデータ

"A","2002000000000000100","000"
 "A","2002000000000000100","001","道 地区 次詳細土地地質調査","孔番-1"
 "A","2002000000000000100","002","県 郡 町","","",""
 "A","2002000000000000100","003","3550300","13945200","0009.,","1","0","20","","",""
 "A","2002000000000000100","004","日本道路公団","","","","",""
 "A","2002000000000000100","A","0250","0010","","",""
 "A","2002000000000000100","B","B1-1 (92)","20020101","20020301",""," 太郎"," 次郎","
 三郎"," 花子","","","030","010.00",""
 "B","2002000000000000100","000","6"
 "B","2002000000000000100","001","000.90","050","ローム","","茶褐色"
 "B","2002000000000000100","001","A","000.90","ローム","","植物根混入"
 "B","2002000000000000100","002","003.40","302","砂利・礫混り砂","","茶褐色"
 "B","2002000000000000100","002","A","003.40","礫混り砂","礫混り砂","(S-M)","礫径 5 ~ 10 mm、有機
 物少量混入不均質"
 "B","2002000000000000100","003","004.75","500","シルト","**AH","青灰色"
 "B","2002000000000000100","003","A","004.75","シルト","粘土質ローム","(CH)","有機物混入、砂分混
 入"
 "B","2002000000000000100","004","005.70","300","砂","**AH","青灰色"
 "B","2002000000000000100","004","A","005.70","細砂","","有機物少量混入均質"
 "B","2002000000000000100","005","006.30","700","有機質土","**K","黒色"
 "B","2002000000000000100","005","A","006.30","有機質土","","含水大"
 "B","2002000000000000100","006","010.45","302","砂利・礫混り砂","","茶褐色"
 "B","2002000000000000100","006","A","010.45","礫混り砂","礫混り砂","(G-M)","礫径 5 ~ 30 mm、亜 ~ 円
 礫、シルト、有機物混入"
 "C","2002000000000000100","000","011"
 "C","2002000000000000100","001","000.90","3","32"
 "C","2002000000000000100","001","A","000.90","1","12","1","10","1","10"
 "C","2002000000000000100","002","001.60","31","30"
 "C","2002000000000000100","002","A","001.60","9","10","10","10","12","10"
 "C","2002000000000000100","003","002.60","28","30"
 "C","2002000000000000100","003","A","002.60","9","10","9","10","10","10"
 "C","2002000000000000100","004","003.70","19","33"
 "C","2002000000000000100","004","A","003.70","10","10","6","11","3","12"
 "C","2002000000000000100","005","004.50","7","31"
 "C","2002000000000000100","005","A","004.50","2","10","2","10","3","11"
 "C","2002000000000000100","006","005.50","14","30"
 "C","2002000000000000100","006","A","005.50","4","10","6","10","4","10"
 "C","2002000000000000100","007","006.50","20","30"
 "C","2002000000000000100","007","A","006.50","2","10","6","10","12","10"
 "C","2002000000000000100","008","007.50","30","30"
 "C","2002000000000000100","008","A","007.50","10","10","11","10","9","10"
 "C","2002000000000000100","009","008.50","35","31"
 "C","2002000000000000100","009","A","008.50","12","10","11","10","12","11"
 "C","2002000000000000100","010","009.50","33","30"
 "C","2002000000000000100","010","A","009.50","10","10","11","10","12","10"
 "C","2002000000000000100","011","010.50","40","30"
 "C","2002000000000000100","011","A","010.50","12","10","13","10","15","10"
 "D","2002000000000000100","000","007"
 "D","2002000000000000100","S-1","1","000.45","000.77","","","","","","","","","",""
 "D","2002000000000000100","S-1","A","","","",""
 "D","2002000000000000100","S-2","1","002.15","002.45","35","52","10","03","","","",""
 "D","2002000000000000100","S-2","A","","","2.75"
 "D","2002000000000000100","S-3","1","004.15","004.46","","47","30","23","","","",""
 "D","2002000000000000100","S-3","A","","","2.67"
 "D","2002000000000000100","S-4","1","005.15","005.45","","","","","","","",""

別紙 2

電子ボーリングデータ作成要領（案）

電子ボーリングデータファイルのファイル形式
（岩盤）

平成 14 年 2 月

日本道路公団 試験研究所

1 . 一般的事項 [様式 1 (A)]

(1) 調査件名

成果物 (報告書) に書かれている件名を記入する。

バイパス土質調査 (その 2)

- ・ 記入に当たっては、記号等を省略しないこと。

(2) 調査位置

成果物 (報告書) に書かれている場所を記入する。

県 郡 町字

- ・ 道路調査や広域調査等で調査場所が複数の場合は “ / ” で区切り、複数の場所を記入する。

また、ST (KP) 上下線コードについては以下のように記入する。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

STA + R (または、L)

KP + R (または、L)

: ST1、KP1

: ST2、KP2

: STD、KPD

(: R のときは正の値、L のときは負の値、CL のときは値無し)

例 1 : 「 STA 250 + 10 CL 」 のとき

: 250 ST1

: 10 ST2

: STD

例 2 : 「 STA 100 + 10 R2.0 」 のとき

: 100 ST1

: 10 ST2

: 2.0 STD

例 3 : 「 STA 200 + 50 L3.0 」 のとき

: 200 ST1

: 50 ST2

: - 3.0 STD

上下線コードに関して、上り : 1、下り : 2、センターの場合は空

(3) ボーリング ID

記入は半角の数字で行う。

ボーリング ID (19桁) = 調査年 (西暦) の頭3桁 (3桁) + 契約番号 (13桁) + 孔番 (3桁)

・例 調査年：1992年、契約番号：2000022900001、孔番：001 のとき

ボーリング ID：1992000022900001001

(4) ボーリング名

柱状図に記載されているボーリング名をそのまま記入する。

(5) 調査開始日

調査開始の年月日を記入する。

記入は半角の数字で行う。

20000123 (例 2000年1月23日)

(6) 調査終了日

調査終了の年月日を記入する。

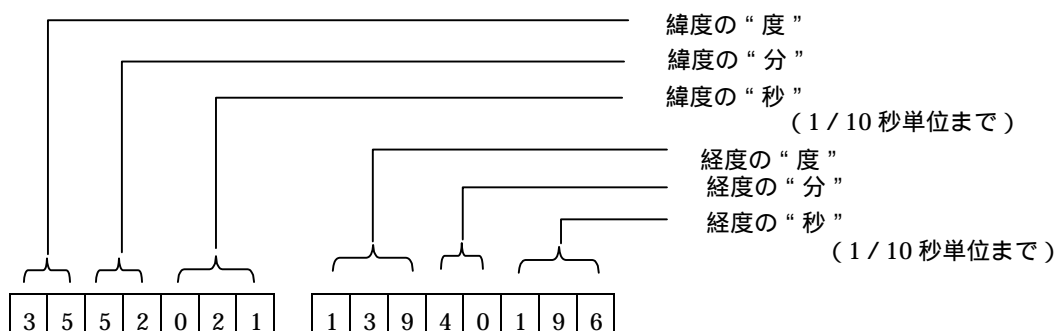
記入は半角の数字で行う。

20000215 (例 2000年2月15日)

(7) 位置

緯度・経度で表わし、最小読み取りを1/10秒までとする。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。



(8) 孔口標高

孔口標高を T.P. 表示とし, m 単位で表わし, 小数点以下 2 桁までとする。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

0	0	1	4	.	4	
---	---	---	---	---	---	--

・ 標高がプラスの場合は + 符号を省略するが, マイナスの場合は 1 桁目に - 符号を入れて標高を記入する。

・ 標高が不明の場合は 1 桁目に “ * ” を記入する。

・ 用意された桁に満たない場合は “ 0 ” で空きカラムを埋め, 小数点以下の上方が無い場合は空欄とする。

例えば標高が “ 14.4m ” と記載されている場合は, 例のように 7 桁目が空欄となる。

また, ある限られた区域の河川や港湾の工事等では, その地域に適した基準面が使用されていることもあるが, その場合, T.P. に換算する必要があるので, T.P. との関係を表 - 1 に示した。

表 - 1 特殊な基準面

基準面 ペール	読み方	意味	使用区分	東京湾平均海面 との関係 [m]	備考
A.P.	エーピー	アラカワペール	荒川, 中川, 多摩川, 東京	- 1.1344	大阪湾の O.P. と異なる
Y.P.	ワイピー	エドガワペール	江戸川, 利根川	- 0.8402	
O.P.	オーピー	オオサカペール	大阪湾, 淀川	- 1.3000	
K.P.	ケーピー	キタカミペール	北上川	- 0.8745	
S.P.	エスピー	シオガマペール	塩釜港, 鳴瀬川	- 0.0873	
O.P.	オーピー	オモノペール	雄物川	± 0.0000	
N.P.	エヌピー	ナゴヤペール	名古屋港	- 1.412	東京湾平均海面 荒川の A.P. と異なる
M.S.L.	エムエスエル	ミーンシーレベル	木曾川	± 0.0000	
A.P.	エーピー	不明	吉野川	- 0.8333	
T.P.	テーピー	トーキョーペール	東京湾	± 0.0000	

(9) ボーリングの方向等

地質の種類，掘進方向および方位からなる。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

地質の種類

柱状図から判断し，表 - 4 のコード表を用いる。

掘進方向

鉛直下方を 000（度），鉛直上方を 180（度）とする。

方位

方位を真北からの時計回りの角度で表わす。北は 000（度），南は 180（度）となる。ただし，掘進方向が 000 または 180 の時は方位の値を持たないので空欄とする。

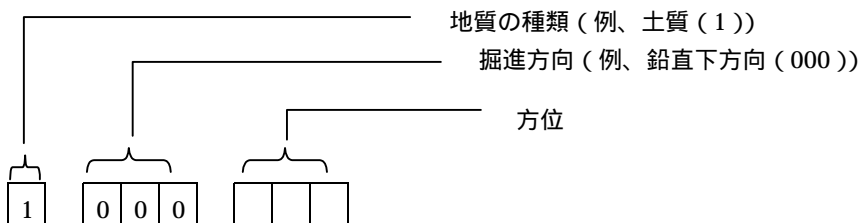


表 - 2 地質のコード

コード	種	類
1	土	質
2	岩	盤
3	土質 + 岩	盤

(10) 発注機関

柱状図に記載されている発注機関名を記入する。

日本道路公団

なお、中分類、小分類、細分類に関しては省略し、値なしとする。

(11) 受託者 (省略)

本要領では省略し、値なしとする。

(12) 調査業者電話番号

調査業者の電話番号を記入する。

03-1234-5678

記入は半角の数字、文字、記号で行い、市外局番等の区切りは半角のハイフン (-) とする。

(13) 主任技術者

本調査の主任技術者名を記入する。

山田太郎

(14) 現場代理人

本調査の現場代理人を記入する。

山田花子

(15) コア鑑定者

本調査のコア鑑定者名を記入する。

山田次郎

(16) ボーリング責任者

本調査のボーリング責任者を記入する。

山田三郎

(17) 試錐機

本調査で利用した試錐機を記入する。

機

(18) エンジン

本調査で利用したエンジンを記入する。

エンジン

(19) ポンプ

本業差で利用したポンプを記入する。

ポンプ

(20) 地盤勾配

水平は000(度), 鉛直は090(度)として、地盤勾配を記入する。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

30

(21) 総掘進長

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

10.00

(22) 調査業者名

記入は全角の数字、文字、記号で行う。

「株式会社」は「(株)」、「有限会社」は「(有)」と記入する。

(23) 孔番 (概要)

記入は半角および全角の数字、文字、記号で行う。

半角で8桁、全角で4桁以内。

孔番 1

(24) 調査目的, 調査対象 (省略)

本要領では省略可能とする。

(25) 室内試験名 (省略)

本要領では省略可能とする。

2 . 柱状図 (地層区分) [様式 2 (B)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の (6) と同一コードを記入する。

(2) データ総数

地質として区分される地層の総数を記入する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	1	7
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、"0"で空カラムを埋める。

(3) データ番号

区分される地層番号で孔口から順次記入する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	0	1
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、"0"で空カラムを埋める。

(4) 地層・下限深度

区分される地層の下限深度を記入する。なお、単位はmで、小数点以下 2 桁まで表示する。

記入は半角の数字で行う。

10.00

(5) 岩種区分

柱状図に記載されている地質名をそのまま記入する。

砂岩

(6) 岩種コード

以下のコード表から該当する岩種コードを記入する。

記入は半角の数字で行う。

岩種コード	岩種分類名	岩種コード	岩種分類名
5101	花崗岩	5242	泥岩
5102	石英閃緑岩 Qd	5243	頁岩
5103	花崗閃緑岩 Gd	5244	粘板岩
5111	風化花崗岩(マサ)WG	5245	互層 Al
5121	閃緑岩 Di	5251	チャート Ch
5122	はんれい岩 Ga	5252	炭質頁岩 CSh
5131	かんらん岩 Pd	5253	砂質頁岩 SSh
5132	蛇紋岩 Sp	5261	火山角礫岩 Vb
5141	石英斑岩 Qp	5262	擬灰角礫岩 Tb
5142	花崗斑岩 Gp	5263	集塊岩 Ag
5143	ひん岩 Po	5273	溶結擬灰岩 Wt
5144	輝緑岩 Db	5311	結晶片岩 Sch
5151	流紋岩 Ry	5312	石英片岩 QSch
5152	石英粗面岩 Lp	5313	砂質片岩 PSch
5153	石英安山岩 Da	5314	黒色片岩 BSch
5154	安山岩 An	5315	緑色片岩 GSch
5156	玄武岩 Ba	5316	千枚岩 Phy
5157	粗粒玄武岩 Do	5317	片麻岩 Gn
5201	擬灰岩 Ti	5318	ホルンフェルス Hr
5202	輝緑擬灰岩 DTi	5411	表土および崖錐堆積物 TI
5203	石灰岩 Ls	5421	火山灰 As
5211	泥岩 Ms	5431	粘土 Cl
5212	頁岩 Sh	5432	砂 S
5213	シルト岩 Slt	5433	砂礫 Gl
5214	粘板岩 Sl	5434	段丘堆積物 Tr
5231	砂岩 Ss	5501	角礫状
5232	硬砂岩 Gw	5511	砂・礫混り粘土状
5233	礫岩 Cg	5512	粘土状
5241	砂岩		

(7) 色調コード

色調は下記の色調コードの組合せで表現する。コードの記入は右詰で、桁数に満たない場合は“*”で
カラムを埋める。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

〔色調コード〕

色調	コード	色調	コード
黒	K	濃	N
褐	C	淡	L
赤	R	暗	D
橙	O	常	B
黄	Y	雑	P
緑	M	斑	S
青	A		
紫	V		
灰	H		
白	W		

〔例〕 暗青灰 * D A H

褐灰 * * C H

(8) 色調名

柱状図に記載されている色調名をそのまま記入する。

青灰色

(9) 硬軟

柱状図に記載されている硬軟をそのまま記入する。

E

(10) コア形状

柱状図に記載されているコア形状をそのまま記入する。

□

(11) 割れ目の状態

柱状図に記載されている割れ目の状態をそのまま記入する。

C

(12) 風化

柱状図に記載されている風化をそのまま記入する。

□

(13) 変質

柱状図に記載されている変質をそのまま記入する。

d

(14) 記事

柱状図に記載されている記事をそのまま記入する。

風化している。

(15) 岩級区分

柱状図に記載されている岩級区分をそのまま記入する。

CH

3 . 標準貫入試験 [様式 3 (C)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の(6)と同一コードを記入する。

(2) データ総数

データシートの散逸を防ぐために、1 孔についてのデータ数を記入する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	1	7
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(3) データ番号

データ番号は、1 孔につき得られた試験値データの孔口からの順番（地表面より順次下方へ）を示す。

その最終番号はデータ総数と一致する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	0	1
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(4) N 値測定開始深度

孔口からの深度を m 単位で示す。表示は小数点以下 2 桁（cm）とする。

記入は半角の数字で行う。

0	1	0	.	0	0
---	---	---	---	---	---

(5) 打撃回数及び貫入長

打撃回数欄には 30cm 貫入するに要した打撃回数（N 値）を記載する。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

- ・ 打撃回数 N 値 50 以上の場合のみ、打撃回数と貫入長を記入するものとし、50 以下の場合は、打撃回数のみ記入する。
- ・ 「ロッド自沈」、あるいは「モンケン自沈」の場合は打撃回数欄に 00 を記入し、貫入欄にはその貫入長を記入する。もし、貫入長が不明の場合は貫入欄に “ * ” を記入する。
- ・ 岩着等により貫入不能の場合は打撃回数欄に “ 99 ” を記入する。
- ・ 打撃回数は 98 回までは原データのまま打撃回数欄に、そのときの貫入長を貫入長欄に記載し、99 回以上を示す場合は全て貫入不能とみなし 99 を記入し、貫入長欄は “ * ” を記入する。

(5) 10cm ごとの打撃回数及び貫入長

10cm、20cm、30cm 貫入するに要した打撃回数及び貫入長を記載する。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

4 . ルジオン試験 [様式 4 (D)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の (6) と同一コードを記入する。

(2) 試料番号

各資料に与えている番号を記入する。

記入は半角の数字で、001 から順番に記入を行う。

001

(3) 上端深度

記入は半角の数字で行う。

3.00

(4) 下端深度

記入は半角の数字で行う。

8.00

(5) ルジオン値

記入は半角の数字で行う。

15.6

(6) 限界圧力

記入は半角の数字で行う。

6.00

(7) Q_{max}

記入は半角の数字で行う。

8.00

(8) P_{max}

記入は半角の数字で行う。

10.00

(9) Q_{sta}

記入は半角の数字で行う。

2.40

(10) Psta

記入は半角の数字で行う。

2.00

(11) 注入量

記入は半角の数字で行う。

2.40

(12) 注入圧力

記入は半角の数字で行う。

2.00

5 . コア [様式 5 (E)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の (6) と同一コードを記入する。

(2) 下端深度

記入は半角の数字で行う。

(3) コア採取率

記入は半角の数字で行う。

(4) 最大コア長

記入は半角の数字で行う。

(5) RQD

記入は半角の数字で行う。

6 . 原位置試験 [様式 6 (F)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の (6) と同一コードを記入する。

(2) 試験名

柱状図に記載されている試験名をそのまま記入する。

試験

(3) 試験深度 - 上端

孔口からの深度を m 単位で示す。表示は小数点以下 2 桁まで (cm) とする。

記入は半角の数字で行う。

0	1	3	.	5	0
---	---	---	---	---	---

 m

(4) 試験深度 - 下端

単位は試験深度 - 上端と同じである。シングルパッカー方式の場合は、試験時の孔底深度と一致する。

記入は半角の数字で行う。

0	1	4	.	0	0
---	---	---	---	---	---

 m

7. 室内試験・・・〔様式7(G)〕

(1) ボーリング ID

様式1(A)の(6)と同一コードを記入する。

(2) データ総数

データシートの散逸を防ぐために、1孔についてのデータ数を記入する。

記入は半角の数字3桁で行う。

0	1	7
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(3) 試験番号

試験番号は、1孔につき得られた試験値データの孔口からの順番（地表面より順次下方へ）を示す。その最終番号はデータ総数と一致する。

記入は半角の数字3桁で行う。

0	0	1
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(4) 試験名

柱状図に記載されている試験名をそのまま記入する。

三	軸	試	験
---	---	---	---

(5) 試験深度 - 上端

孔口からの深度を m 単位で示す。表示は小数点以下2桁まで (cm) とする。

記入は半角の数字で行う。

0	1	3	.	5	0
---	---	---	---	---	---

 m

(6) 試験深度 - 下端

単位は試験深度 - 上端と同じである。シングルバッカー方式の場合は、試験時の孔底深度と一致する。

記入は半角の数字で行う。

0	1	4	.	0	0
---	---	---	---	---	---

 m

8 . 掘進状況 [様式 8 (H)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の(6)と同一コードを記入する。

(2) データ総数

データシートの散逸を防ぐために、1 孔についてのデータ数を記入する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	1	7
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(3) 下限深度

下限深度を記入する。なお、単位はmで、小数点以下 2 桁まで表示する。

記入は半角の数字で行う。

8.00

(4) 掘進月日

記入は半角の数字で行う。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

0	1	1	2
---	---	---	---

 (例 , 1 月 1 2 日 の 場 合 (0112))

・用意した桁に満たない場合は“0”で空カラムを埋める。

(5) 掘進速度

記入は半角の数字で行う。

60.00

(6) 給圧

記入は半角の数字で行う。

2

(7) 回転数

記入は半角の数字で行う。

1.00

(8) 送水圧

記入は半角の数字で行う。

0.00

(9) 送水量

記入は半角の数字で行う。

10.00

(10) 水の種類

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

清水

(11) 排水量

記入は半角の数字で行う。

10.00

(12) 孔径

記入は半角の数字で行う。

86.00

(13) 孔壁保護

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

ケーシング

(14) コアチューブ/ビット

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

ダブル

9 . 孔内水位 [様式 9 (1)]

(1) ボーリング ID

様式 1 (A) の (6) と同一コードを記入する。

(2) データ総数

データシートの散逸を防ぐために、1 孔についてのデータ数を記入する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	1	7
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(3) データ番号

データ番号は、1 孔につき得られた孔内水位分データの孔口からの順番をしめす。

その最終値はデータ総数と一致する。

記入は半角の数字 3 桁で行う。

0	0	1
---	---	---

用意された桁数に満たない場合、“0”で空カラムを埋める。

(4) 孔内水位

孔口からの深度を m 単位で表わし、小数点以下 2 桁までとする。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

0	0	4	.	9	5
---	---	---	---	---	---

 (例 , GL - 4.95m の場合 (004.95))

・用意した桁に満たない場合は“0”で空カラムを埋める。

・自噴等表現出来ない場合は記入しない。

(5) 測定月日

孔内水位の測定月日を記入する。

記入は半角の数字、文字、記号で行う。

0	1	1	2
---	---	---	---

 (例 , 1 月 1 2 日の場合 (0112))

・用意した桁に満たない場合は“0”で空カラムを埋める。

10 . 自由記入欄 [様式 10 (Y)]

(1) 自由記入欄

文字、数字を自由に記入することができます。

11. データフォーマット

〔様式 1 (A)〕 一般的事項

“A”, “ボーリング ID”, “000”
“A”, “ボーリング ID”, “001”, “調査件名”, “孔番 (概要)”
“A”, “ボーリング ID”, “002”, “調査場所”,
“A”, “ボーリング ID”, “003”, “位置 (緯度)”, “位置 (経度)”, “孔口標高”, “地質種類”, “掘進方向”, “方位”
“A”, “ボーリング ID”, “004”, “発注機関 (大分類)”, “発注機関 (中分類)”, “発注機関 (小分類)”, “発注機関 (細分類)”, “調査目的”, “調査対象”, “受託者”
“A”, “ボーリング ID”, “A”, “調査位置 ST1”, “調査位置 ST2”, “調査位置 STD”, “調査位置 KP1”, “調査位置 KP2”, “調査位置 KPD”, “上下線コード”
“A”, “ボーリング ID”, “B”, “ボーリング名”, “調査開始日”, “調査終了日”, “調査業者電話番号”, “主任技術者”, “現場代理人”, “コア鑑定者”, “ボーリング責任者”, “試錐機”, “エンジン”, “ポンプ”, “地盤勾配”, “総掘進長”, “調査業者名”, “室内試験名”

〔様式 2 (B)〕 柱状図 (地層区分)

“B”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”
本レコードは、様式 2 (B) データに対する先頭情報です。
様式 2 (B) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。
“B”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “下限深度 (m)”, “岩種コード”, “岩種区分”, “色調コード”, “色調名”
... “NNN”
本レコードは、様式 2 (B) 内のデータ総数分だけ作成します。
“B”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “A”, “下限深度 (m)”, “硬軟”, “コア形状”, “割れ目の状態”, “風化”, “変質”, “記事”, “岩級区分”
... “NNN”
本レコードは、様式 2 (B) 内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 3 (C)〕 標準貫入試験

“C”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”
本レコードは、様式 3 (C) データに対する先頭情報です。
様式 3 (C) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。
“C”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “N 値測定開始深度 (m)”, “打撃回数”, “貫入長”
... “NNN”
本レコードは、様式 3 (C) 内のデータ総数分だけ作成します。
“C”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “A”, “N 値測定開始深度 (m)”, “10cm 打撃回数”, “10cm 貫入長”, “20cm 打撃回数”, “20cm 貫入長”, “30cm 打撃回数”, “30cm 貫入長”
... “NNN”
本レコードは、様式 3 (C) 内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 4 (D)〕 ルジオン試験

“D”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”
本レコードは、様式 4 (D) データに対する先頭情報です。
様式 4 (D) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。
“D”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号 (資料番号))”, “上端深度”, “下端深度”, “ルジオン値”, “限界圧力”, “Qmax”, “Pmax”, “Qsta”, “Psta”
... “NNN”
本レコードは、様式 4 (D) 内のデータ総数分だけ作成します。
“D”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号 (資料番号))”, “A”, “シリアル No”, “注入量”, “注入圧力”
... “NNN”
本レコードは、様式 4 (D) 内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 5 (E)〕 コア

“E”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”

本レコードは、様式 5 (E) データに対する先頭情報です。

様式 5 (E) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“E”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “下端深度”, “最大コア長”, “RQD”
... “NNN”

本レコードは、様式 5 (E) 内のデータ総数分だけ作成します。

“E”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “A”, “下端深度”, “コア採取率”
... “NNN”

本レコードは、様式 5 (E) 内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 6 (F)〕 原位置試験

“F”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”

本レコードは、様式 6 (F) データに対する先頭情報です。

様式 6 (F) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“F”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “上端深度”, “下端深度”, “試験名”
... “NNN”

本レコードは、様式 6 (F) 内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 7 (G)〕 室内試験

“G”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”, “試験名”

本レコードは、様式 7 (G) データに対する先頭情報です。

様式 7 (G) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“G”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号 (試験番号))”, “開始深度”, “終了深度”
... “NNN”

本レコードは、様式 7 (G) 内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 8 (H)〕 掘進状況

“H”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”

本レコードは、様式 8 (H) データに対する先頭情報です。

様式 8 (H) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“H”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “下端深度”, “掘進月日”, “掘進速度”, “給圧”, “回転数”, “送水圧”, “送水量”, “掘削水の種類”, “排水量”
... “NNN”

本レコードは、様式 8 (H) 内のデータ総数分だけ作成します。

“H”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “A”, “下端深度”, “孔径”, “孔壁保護”, “コアチューブ/ビット”

... “NNN”

本レコードは、様式 8 (H) 内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 9 (I)〕 孔内水位

“I”, “ボーリング ID”, “000”, “データ総数”

本レコードは、様式 9 (I) データに対する先頭情報です。

様式 9 (I) にデータが無い場合は、本レコードは作成しません。

“I”, “ボーリング ID”, “001 (データ番号)”, “孔内水位”, “測定月日”
... “NNN”

本レコードは、様式 9 (I) 内のデータ総数分だけ作成します。

〔様式 10 (Y)〕 自由記入欄

“Y”, “ボーリング ID”, “自由記入欄”

サンプルデータ

"A","2002000000000000100","000"
 "A","2002000000000000100","001","道 地区第 次詳細土質地質調査","孔番-1"
 "A","2002000000000000100","002","県 郡 町"
 "A","2002000000000000100","003","3432360","13227240","0100.","2","0",""
 "A","2002000000000000100","004","日本道路公団","","","","",""
 "A","2002000000000000100","A","0350","0010","","","","",""
 "A","2002000000000000100","B","","19911001","19911201",""," 太郎"," 次郎"," 三郎,"
 花子","","","030","025.00","",""
 "B","2002000000000000100","000","5"
 "B","2002000000000000100","001","001.80","5411","表土および崖錐堆積物 T1","**YC","黄褐色"
 "B","2002000000000000100","001","A","001.80","E"," " ,"d","","","風化花崗岩(マサ)起源の砂状崖錐堆
 積物。 3~5 cmの花崗岩礫を少々含む。軟質、土質区分(マサ) ",""
 "B","2002000000000000100","002","003.50","5111","風化花崗岩(マサ)WG","***C","褐色"
 "B","2002000000000000100","002","A","003.50","D"," " ,"d"," " ,"","マサ状の強風化花崗岩、粗粒砂状、
 石英粒子は残るが、長石、雲母は風化、軟質、土質区分(マサ) ","D"
 "B","2002000000000000100","003","005.30","5101","花崗岩","***C","褐色"
 "B","2002000000000000100","003","A","005.30","C"," " ,"c"," " ,"","風化している。長石、雲母はかなり
 粘土化している。割れ目沿いは赤褐色となっている。","D"
 "B","2002000000000000100","004","007.00","5101","花崗岩","**HC","灰褐色"
 "B","2002000000000000100","004","A","007.00","B"," " ,"c"," " ,"","長石が変質し、雲母の周辺は褐色と
 となっている。割れ目沿いは赤褐色に風化。岩片は硬い。","CL"
 "B","2002000000000000100","005","010.00","5101","花崗岩","***H","灰色"
 "B","2002000000000000100","005","A","010.00","B"," " ,"b"," " ,"","ほとんど風化していない硬い花崗
 岩である。割れ目は水平方向のものが多く 15~50 cmの間隔に分布する。","CH"
 "C","2002000000000000100","000","009"
 "C","2002000000000000100","001","000.20","5","30"
 "C","2002000000000000100","001","A","000.20","","","","",""
 "C","2002000000000000100","002","000.60","4","30"
 "C","2002000000000000100","002","A","000.60","","","","",""
 "C","2002000000000000100","003","001.50","6","30"
 "C","2002000000000000100","003","A","001.50","","","","",""
 "C","2002000000000000100","004","001.90","8","30"
 "C","2002000000000000100","004","A","001.90","","","","",""
 "C","2002000000000000100","005","002.20","10","30"
 "C","2002000000000000100","005","A","002.20","","","","",""
 "C","2002000000000000100","006","002.90","7","30"
 "C","2002000000000000100","006","A","002.90","","","","",""
 "C","2002000000000000100","007","003.90","25","30"
 "C","2002000000000000100","007","A","003.90","","","","",""
 "C","2002000000000000100","008","004.50","52","30"
 "C","2002000000000000100","008","A","004.50","","","","",""
 "C","2002000000000000100","009","004.90","53","30"
 "C","2002000000000000100","009","A","004.90","","","","",""
 "E","2002000000000000100","000","18"
 "E","2002000000000000100","001","000.50","05","00"
 "E","2002000000000000100","001","A","000.50","75"
 "E","2002000000000000100","002","000.70","06","00"
 "E","2002000000000000100","002","A","000.70","75"
 "E","2002000000000000100","003","001.50","06","00"
 "E","2002000000000000100","003","A","001.50","83"
 "E","2002000000000000100","004","002.00","00","00"
 "E","2002000000000000100","004","A","002.00","83"
 "E","2002000000000000100","005","002.50","00","00"
 "E","2002000000000000100","005","A","002.50","93"
 "E","2002000000000000100","006","003.00","00","00"
 "E","2002000000000000100","006","A","003.00","93"
 "E","2002000000000000100","007","003.50","00","00"

"E","2002000000000000100","007","A","003.50","95"
 "E","2002000000000000100","008","004.20","14","31"
 "E","2002000000000000100","008","A","004.20","95"
 "E","2002000000000000100","009","004.50","14","31"
 "E","2002000000000000100","009","A","004.50","84"
 "E","2002000000000000100","010","005.20","15","26"
 "E","2002000000000000100","010","A","005.20","84"
 "E","2002000000000000100","011","005.50","15","26"
 "E","2002000000000000100","011","A","005.50","94"
 "E","2002000000000000100","012","006.30","27","47"
 "E","2002000000000000100","012","A","006.30","94"
 "E","2002000000000000100","013","006.50","27","47"
 "E","2002000000000000100","013","A","006.50","95"
 "E","2002000000000000100","014","007.50","17","17"
 "E","2002000000000000100","014","A","007.50","95"
 "E","2002000000000000100","015","007.70","36","53"
 "E","2002000000000000100","015","A","007.70","95"
 "E","2002000000000000100","016","008.50","36","53"
 "E","2002000000000000100","016","A","008.50","100"
 "E","2002000000000000100","017","009.30","34","83"
 "E","2002000000000000100","017","A","009.30","100"
 "E","2002000000000000100","018","009.50","34","83"
 "E","2002000000000000100","018","A","009.50","100"
 "G","2002000000000000100","000","2","三軸試験"
 "G","2002000000000000100","001","000.50","001.20"
 "G","2002000000000000100","002","002.00","002.80"
 "H","2002000000000000100","000","005"
 "H","2002000000000000100","001","001.80","1010","060.00","100.00","120","000.00","000.00","","000.00"
 "H","2002000000000000100","001","A","001.80","066.00","","ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット"
 "H","2002000000000000100","002","003.50","1010","120.00","100.00","120","000.00","000.00","","000.00"
 "H","2002000000000000100","002","A","003.50","066.00","","ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット"
 "H","2002000000000000100","003","005.30","1011","200.00","150.00","250","010.00","060.00","","006.00"
 "H","2002000000000000100","003","A","005.30","066.00","","ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット"
 "H","2002000000000000100","004","007.00","1011","180.00","150.00","300","010.00","040.00","","005.00"
 "H","2002000000000000100","004","A","007.00","066.00","","ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット"
 "H","2002000000000000100","005","010.00","","150.00","200.00","350","010.00","030.00","","015.00"
 "H","2002000000000000100","005","A","010.00","066.00","","ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット"
 "I","2002000000000000100","000","2"
 "I","2002000000000000100","001","001.00","0610"
 "I","2002000000000000100","002","002.00","0612"
 "Y","2002000000000000100",""

別紙 3

電子ボーリングデータ作成要領（案）

電子ボーリングデータ作成支援システム
利用者マニュアル（調査業者用）

平成 14 年 2 月

日本道路公団 試験研究所

目 次

1 . 概要	1
2 . システムインストール方法	2
2 - 1 システムの入手	2
2 - 2 システムのインストール (環境設定)	2
3 . システムの利用方法	3
3 - 1 土質用システム	3
3 - 1 - 1 システムの起動	3
3 - 1 - 2 データの入力	4
3 - 1 - 3 データのチェック	25
3 - 1 - 4 柱状図表示	26
3 - 1 - 5 データをファイルに保存	28
3 - 1 - 6 全入力画面をクリア	29
3 - 1 - 7 ファイルからデータを読み込み	30
3 - 2 岩盤用システム	31
3 - 2 - 1 システムの起動	31
3 - 2 - 2 データの入力	31
3 - 2 - 3 データのチェック	41
3 - 2 - 4 柱状図表示	41
3 - 2 - 5 データをファイルに保存	41
3 - 2 - 6 全入力画面をクリア	41
3 - 2 - 7 ファイルからデータを読み込み	41

1 . 概要

電子ボーリングデータ作成支援システムは、「電子ボーリングデータ作成要領(案)」に規定している電子ボーリングデータを作成し、内容のチェックを行うシステムです。

この利用者用マニュアルは、システムのインストール、利用方法等について記載しています。

システムで作成される電子ボーリングデータの仕様に関しては、「電子ボーリングデータ作成要領(案)」に規定しています。

2 . システムインストール方法

2 - 1 システムの入手

本システムは、業務開始段階より日本道路公団より貸与されるものであり、電子納品用のデータ作成を支援するためのものです。

2 - 2 システムのインストール（環境設定）

システムのインストールは以下の手順で行ってください。

システム利用用のフォルダを作成してください。

例：C:¥Program Files¥地質調査¥

貸与されたファイルを で作成したフォルダに移動してください。
移動するファイルの種類は表 1 に示します。

表 1 システムの種類とファイル名

種類	ファイル名
土質用システム	土質.xls
岩盤用システム	岩盤.xls
マスターファイル	Master.mdb

3 . システムの利用方法

3 - 1 土質用システム

3 - 1 - 1 システムの起動

土質.xls をダブルクリックして、起動してください。起動時にマクロの確認画面が表示されますので、「マクロを有効にする」を選択してください。

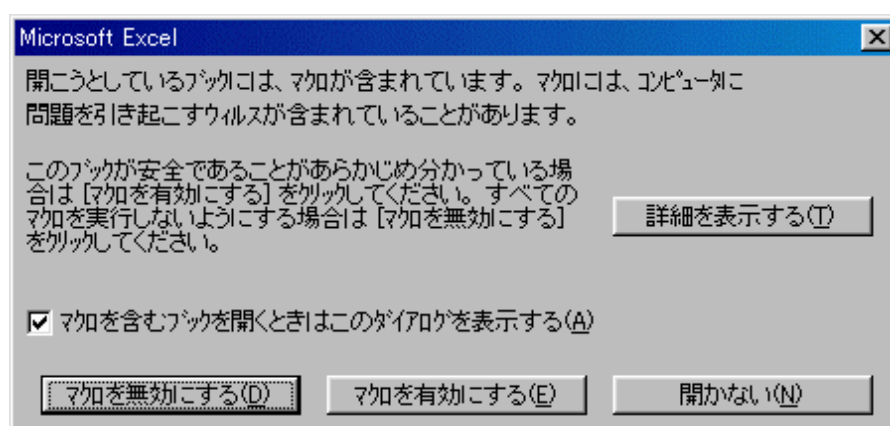


図 1 マクロ確認画面

3 - 1 - 2 データの入力

システムを起動すると初期画面が表示されます。

初期画面で、調査年、契約番号、孔番およびデータファイルを保管するフォルダー名を必ず入力してください。

フォルダー名に関しては、システムを利用するパソコンにおける任意のフォルダーを指定することができます。

なお、英数字は半角、文字は全角または半角で入力してください。

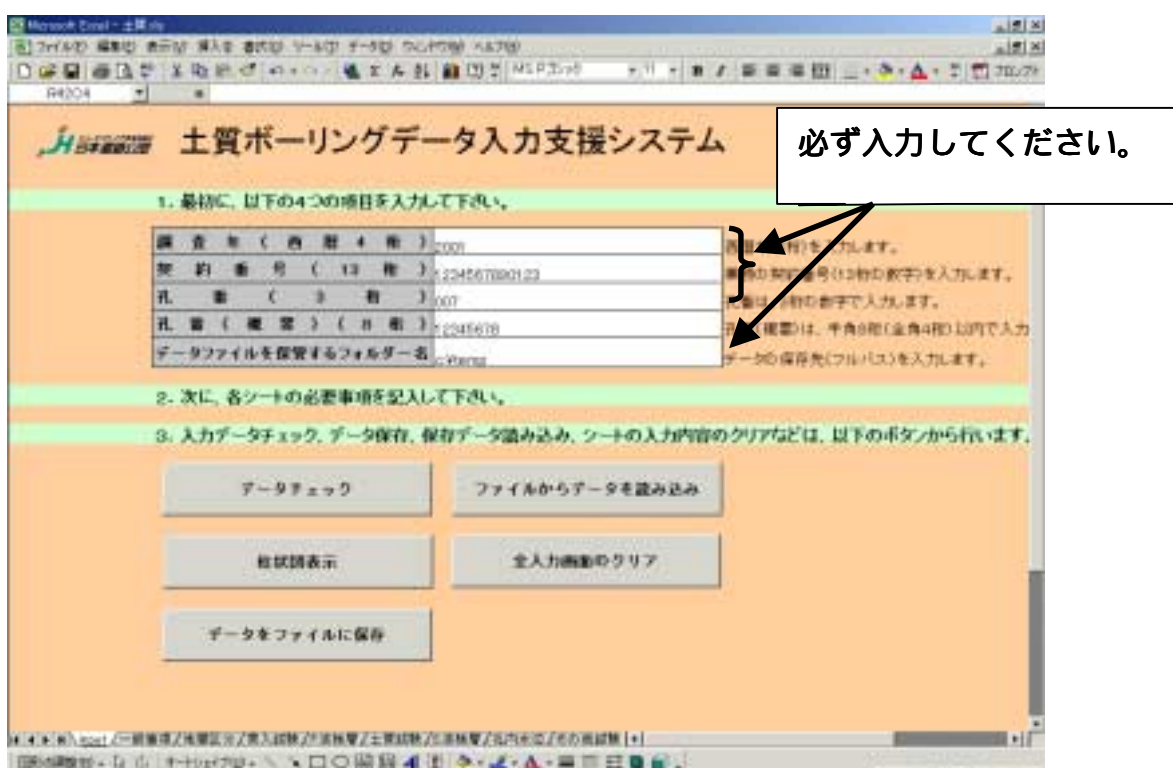


図 2 初期画面

孔番 (概要) は、孔番の他に各ボーリングを区別する名称を利用している場合に入力する項目です。

「孔 - 1」「孔 2」などの名称を半角 8 桁 (全角 4 桁) 以内で入力してください。

初期画面の入力が終了したら、各項目の入力を行ってください。
各項目はシート名（例：一般事項）をクリックすると、入力画面が表示されます。

(1) 一般事項の入力

シート名「一般事項」を選択すると、一般事項の入力画面が表示されます。

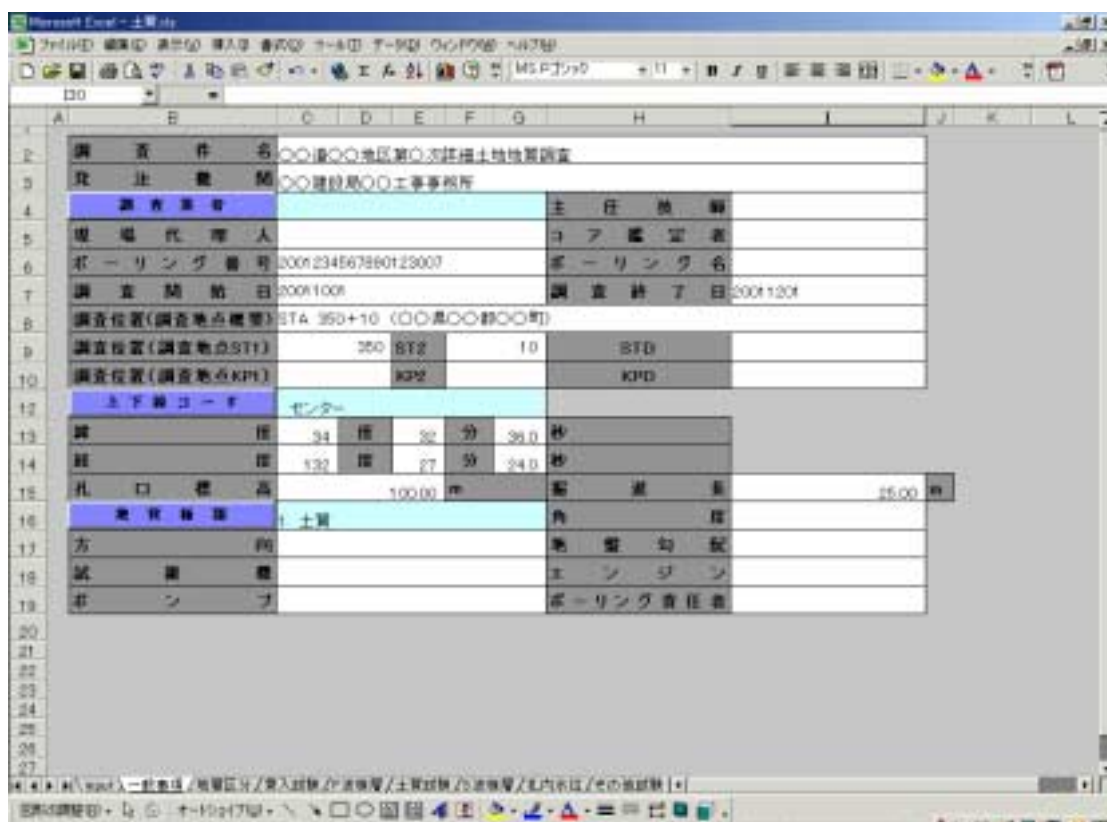


図 3 一般事項入力画面

【調査位置の入力方法】

STA + R (または、L)

KP + R (または、L)

: ST1、KP1

: ST2、KP2

: STD、KPD

(: R のときは正の値、L のときは負の値、CL のときは値無し)

例 1 : 「STA 250 + 10 CL」のとき

: 250 ST1
: 10 ST2
: STD

例 2 : 「STA 100 + 10 R2.0」のとき

: 100 ST1
: 10 ST2
: 2.0 STD

例 3 : 「STA 200 + 50 L3.0」のとき

: 200 ST1
: 50 ST2
: - 3.0 STD

【角度、方向、地盤勾配の記入方法】

角度 : 0 (下) ~ 180 (上) の数字で記入してください。

方向 : 0 (°) ~ 360 (°) の数字で記入してください。

地盤勾配 : 0 (水平) ~ 90 (鉛直) の数字で記入してください。

調査業者の入力

調査業者の入力は、「調査業者」ボタンを押してください。

調査業者の一覧が表示されます。

ここで、該当する業者を選択し、「選択」ボタンを押してください。

選択した業者が入力されます。

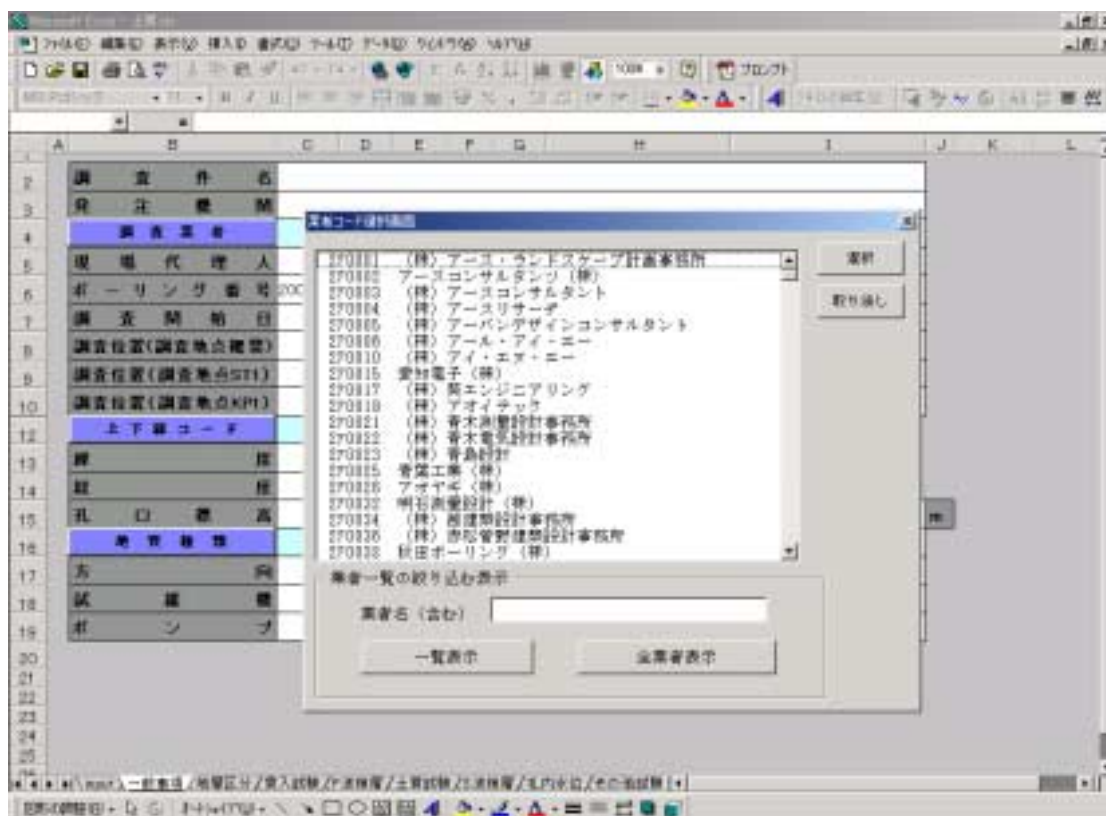


図 4 調査業者の入力画面

調査開始日、調査終了日の入力

調査開始日、調査終了日の入力は、年(4桁) + 月(2桁) + 日(2桁)の合計8桁(半角)で入力してください。

例：2001年1月1日 2000101
 2003年12月24日 20031224

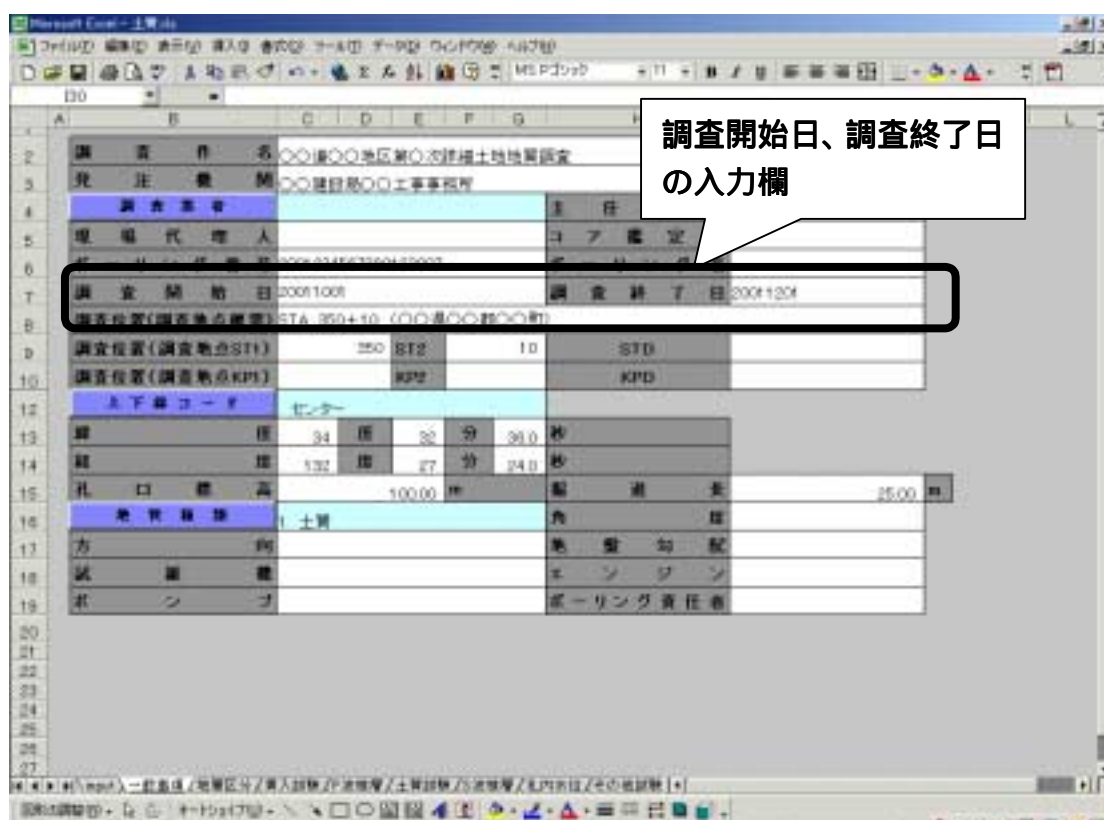


図 5 調査開始日、終了日の入力画面

上下線コードの入力

上下線コードの入力は、「上下線コード」ボタンを押してください。
上下線コードの一覧が表示されます。

ここで、該当するコードを選択し、「選択」ボタンを押してください。

選択したコードが入力されます。

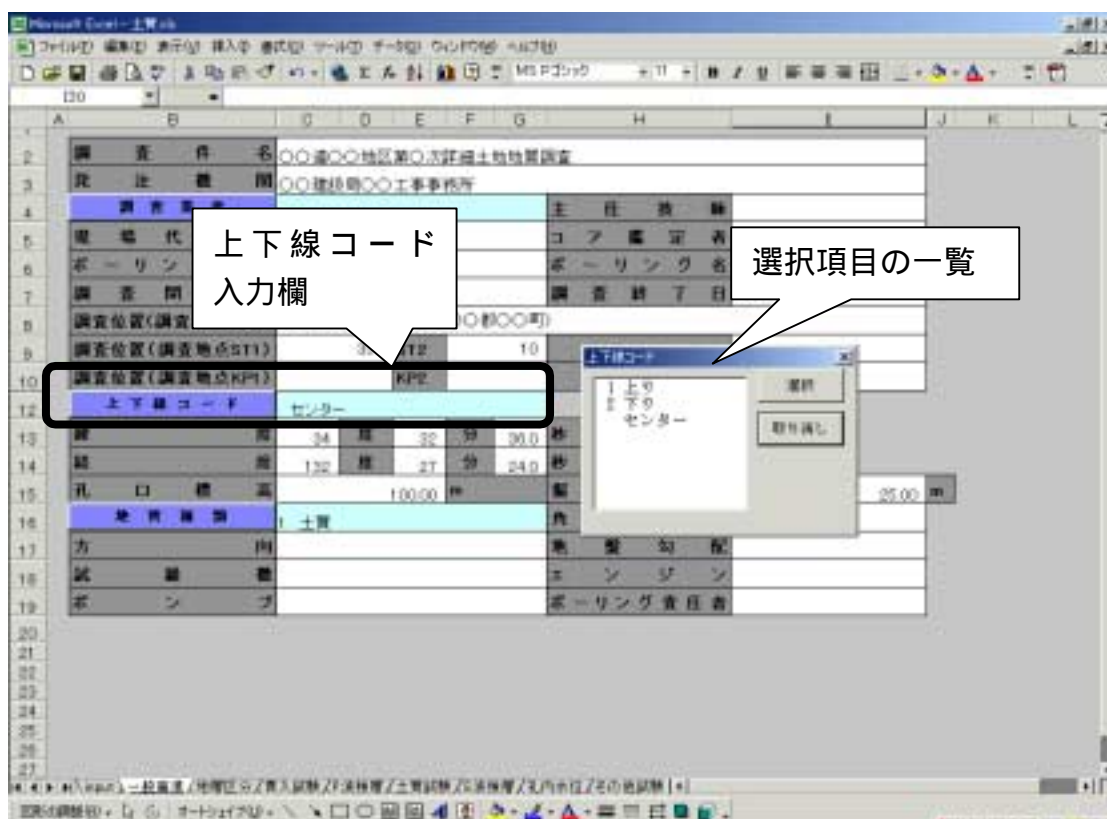


図 6 上下線コード入力画面

地質種類

地質種類の入力は、「地質種類」ボタンを押してください。

地質種類の一覧が表示されます。

ここで、該当する種類を選択し、「選択」ボタンを押してください。

選択したコードが入力されます。

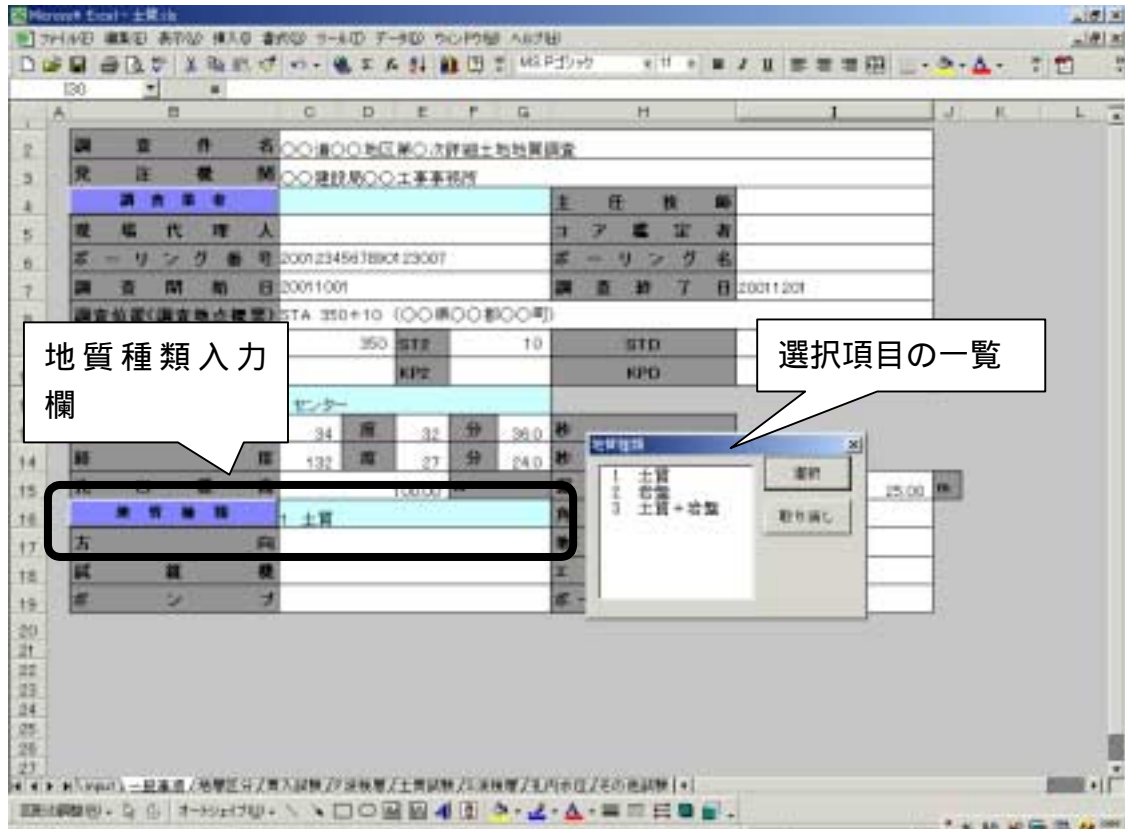


図 7 地質種類入力画面

(2) 地層区分の入力

シート名「地層区分」を選択すると、地層区分の入力画面が表示されます。

1	地層下層深さ (m)	地質コード	地質名 (現場観察による分類)	地質名 (三角定規による分類)	地質名 (日本統一土質分類)	色調コード	色
2	0.90	000 ローム	ローム			0000	黄褐色
3	3.40	000 砂粒-礫混り砂	礫混り砂	礫混り砂	(S-M)	0000	黄褐色
4	4.75	000 シルト	シルト	粘土質ローム	(S-P)	0000	青灰色
5	5.70	000 砂	砂			0000	青灰色
6	6.30	000 有機質土	有機質土			0000	褐色
7	10.45	000 砂粒-礫混り砂	礫混り砂	礫混り砂	(S-M)	0000	黄褐色
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							

図 8 地層区分入力画面

地質コードは必須項目です。

必ず入力するようにしてください。

対応するコードが存在しない場合は、地質名に入力するようにしてください。

地質コードの入力

地質コードの入力は、入力するセルにカーソルを移動してください。移動したカーソルのセル番号が自動的に入力されます。

次に「地質コード」ボタンを押してください。

地質コード選択画面が表示されます。

次に、該当する地質コードを選択してください。選択した地質コードおよび地質名が表示されます。

最後に「選択」ボタンを押してください。

選択した地質コードが入力されます。

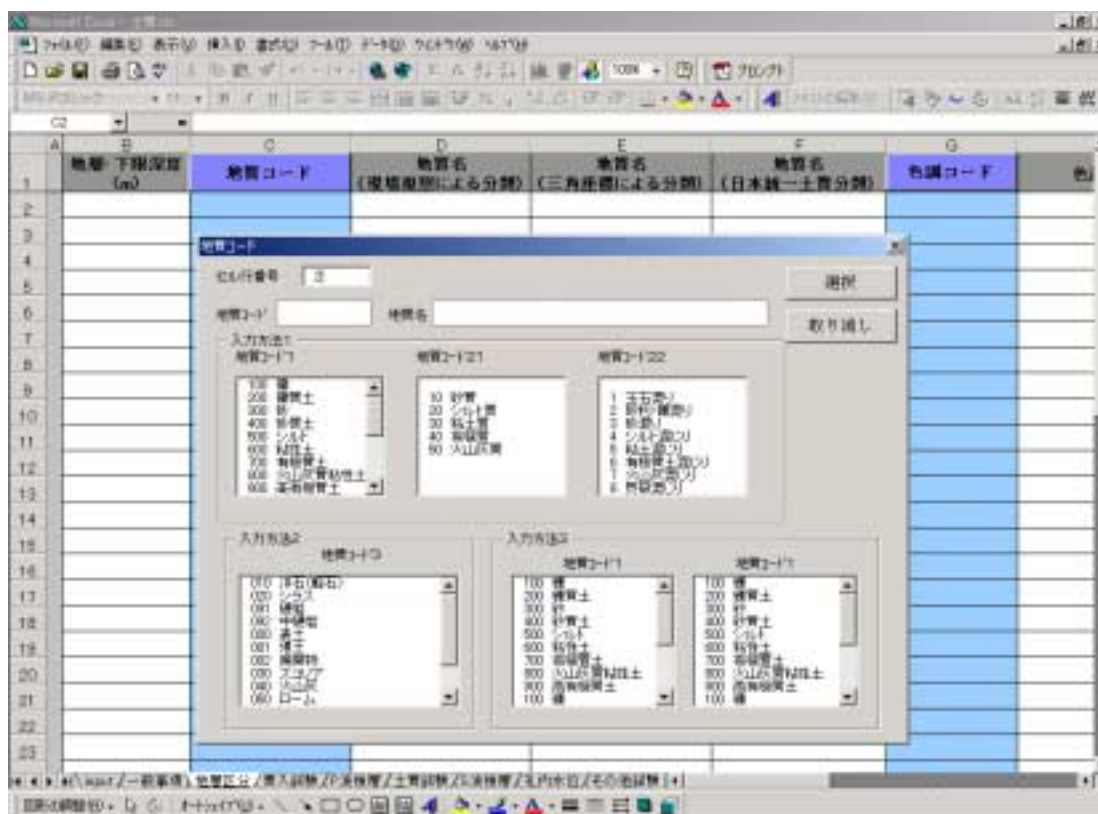


図 9 地質コードの入力画面

なお、地質コードの入力は、次の3つのパターンを用意しています。

a) 入力方法 1

地質コード 1、地質コード 2 1、地質コード 2 2の中から次のように選択してください。

- ・地質コード 1 のみ
- ・地質コード 1 + 地質コード 2 1
- ・地質コード 1 + 地質コード 2 2
- ・地質コード 1 + 地質コード 2 1 + 地質コード 2 2

選択後、「選択」ボタンを押してください。

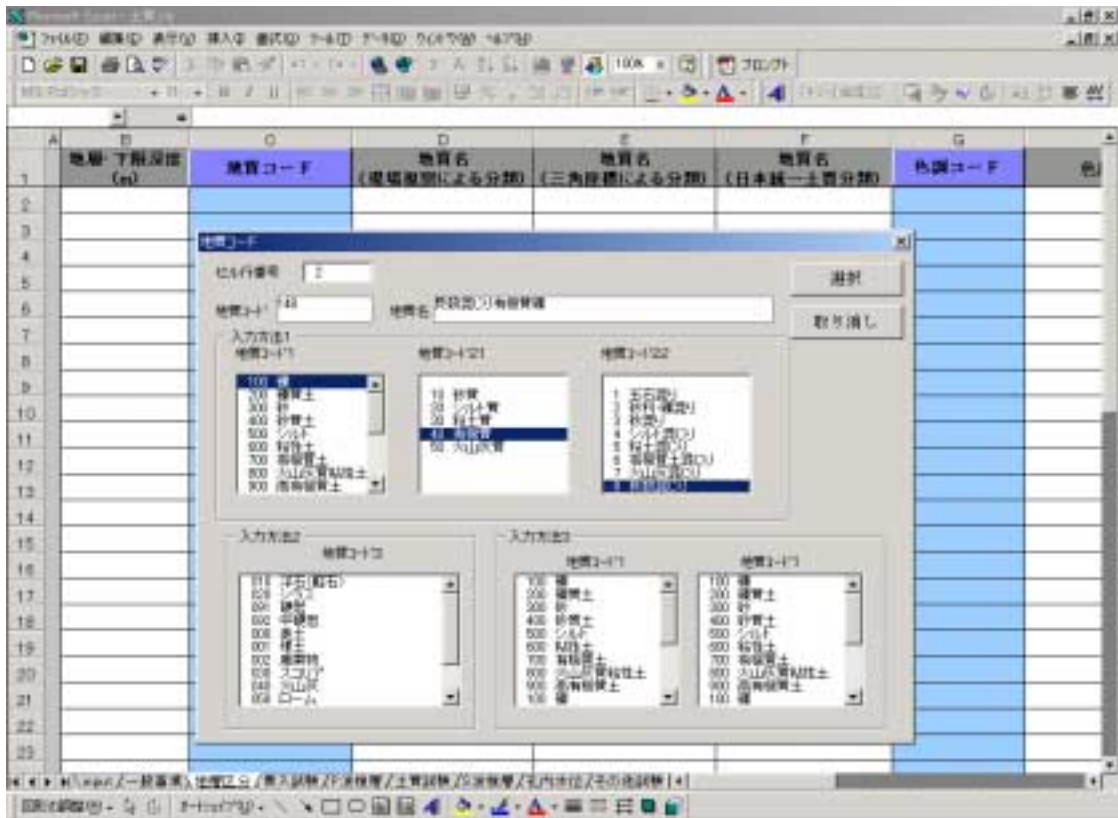


図 10 地質コードの入力画面（入力方法 1）

b) 入力方法 2

地質コード 3の中から該当する地質コードを選択し、「選択」ボタンを押してください。

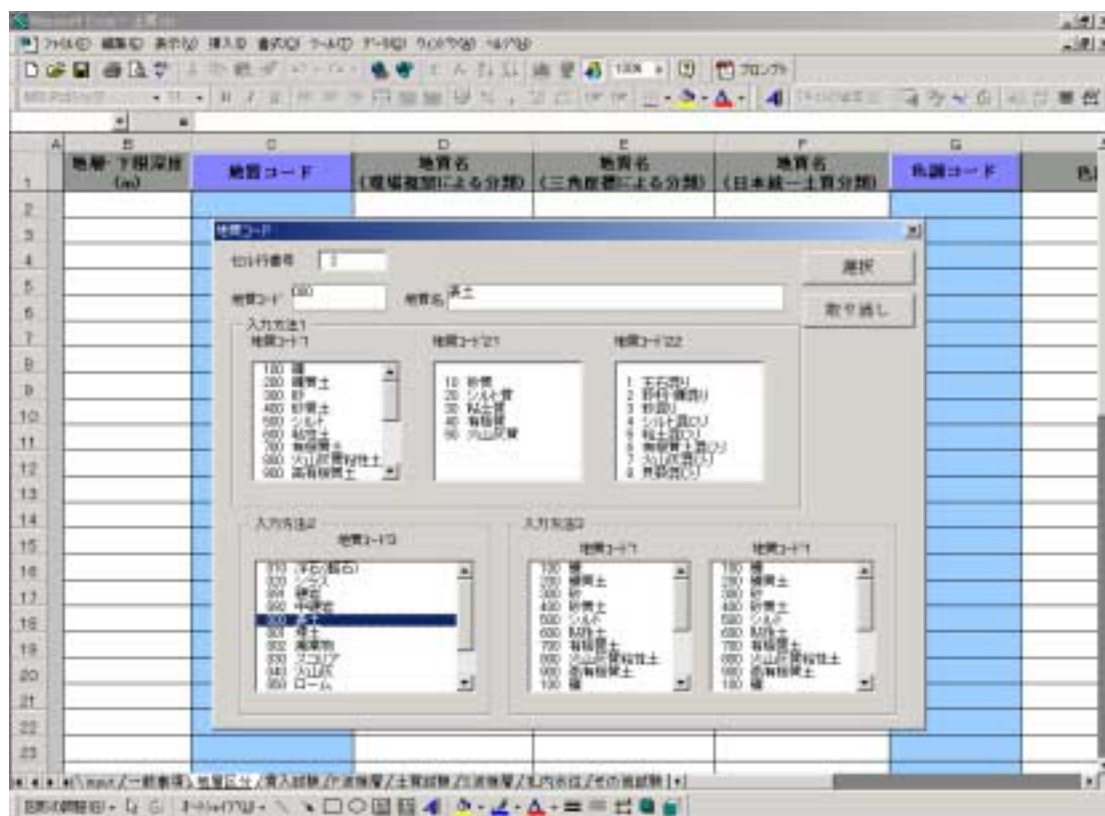


図 11 地質コードの入力画面 (入力方法 2)

c) 入力方法 3

互層の場合、地質コード 1 を 2 つ選択し、「選択」ボタンを押してください。

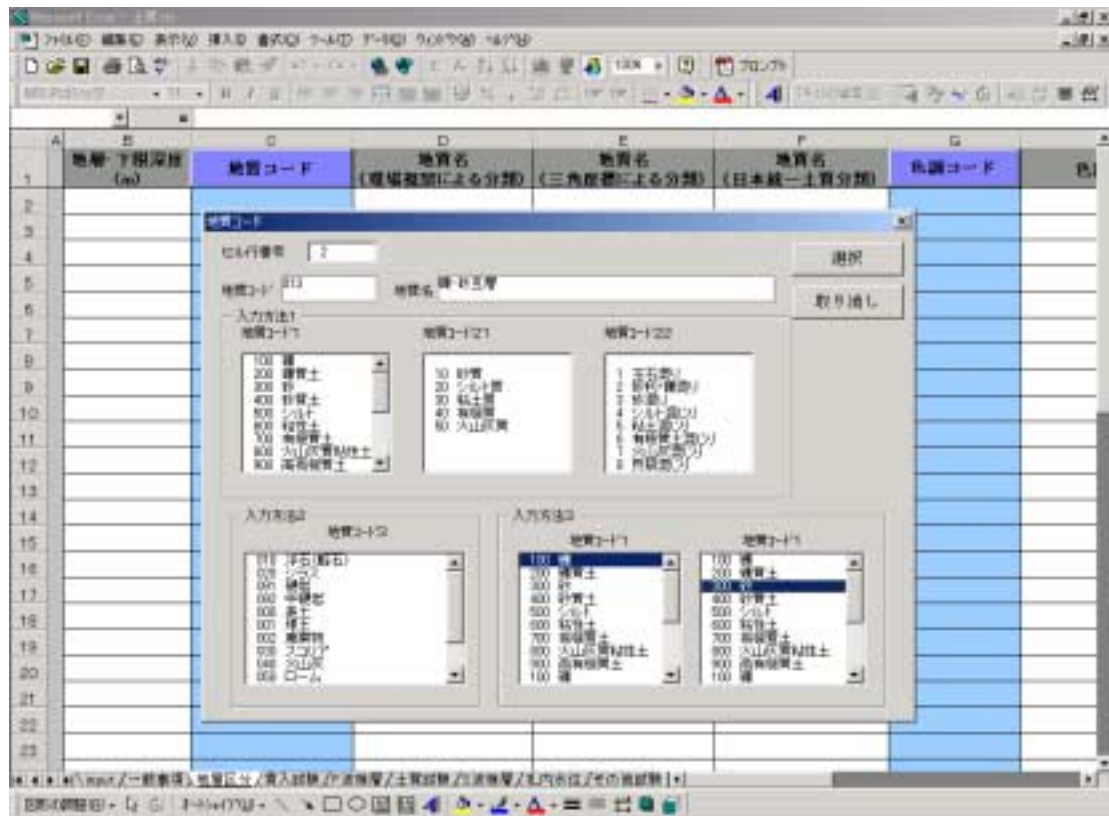


図 12 地質コードの入力画面 (入力方法 3)

色調コードの入力

色調コードの入力は、入力するセルにカーソルを移動してください。移動したカーソルのセル番号が自動的に入力されます。

次に、「色調コード」ボタンを押してください。

色調コード選択画面が表示されます。

次に、該当する色調コードを選択してください。選択した色調コードおよび色調名が表示されます。

選択後、「選択」ボタンを押してください。

選択した色調コードが入力されます。

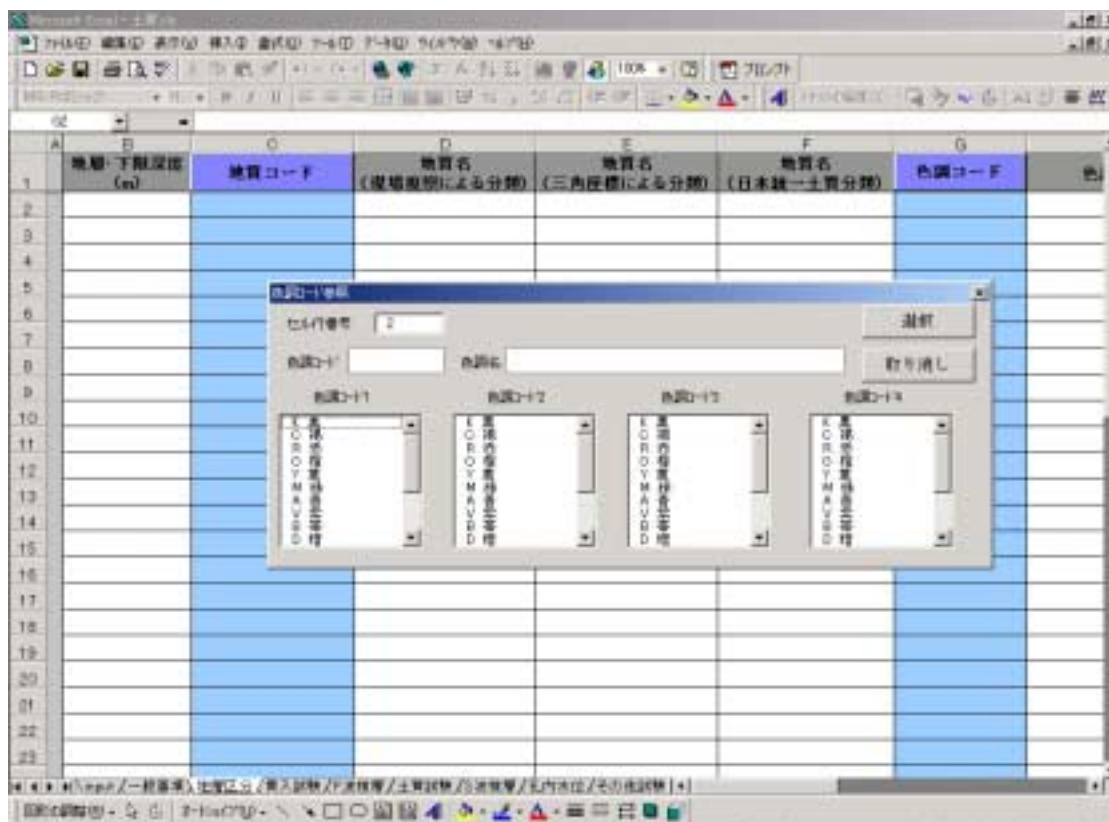


図 13 色調コードの入力画面

(3) 貫入試験の入力

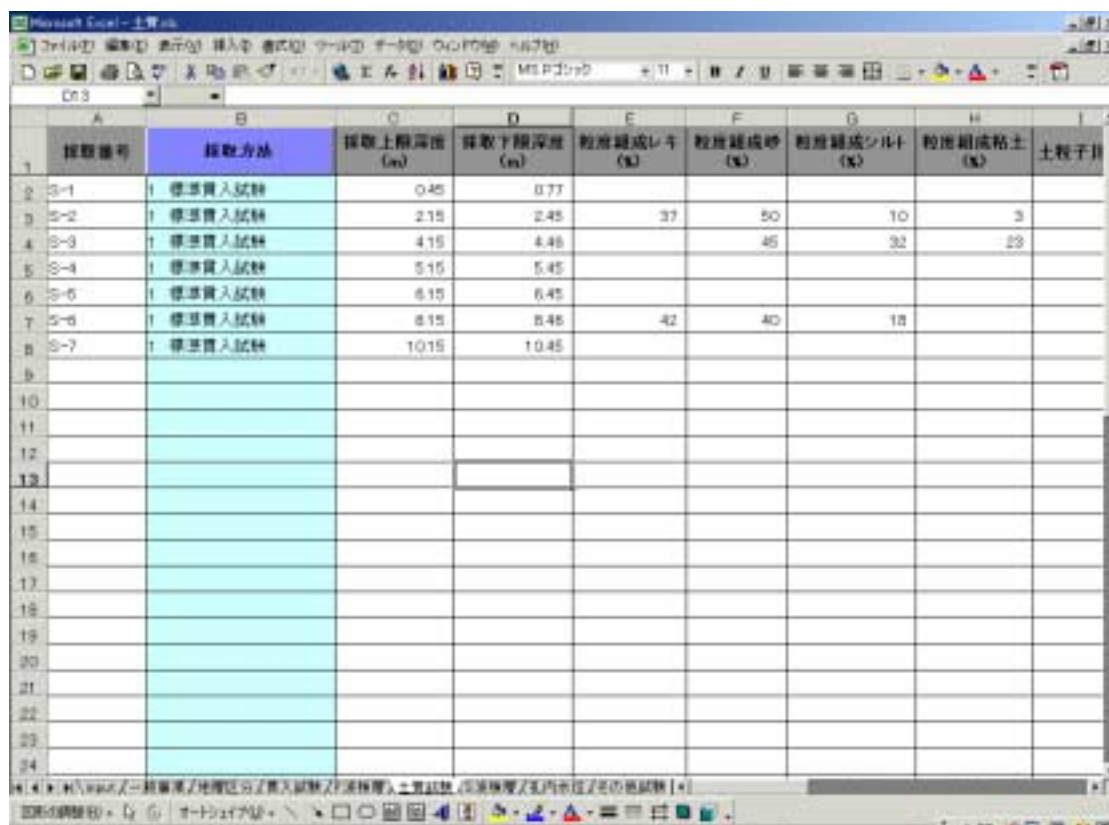
シート名「貫入試験」を選択すると、貫入試験の入力画面が表示されます。

	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	試験開始 開始深さ (m)	打撃回数	貫入長 (cm)	打撃回数 (10cm)	貫入長 (10cm) (cm)	打撃回数 (20cm)	貫入長 (20cm) (cm)	打撃回数 (30cm)	貫入長 (30cm) (cm)			
2	0.45	3	32.00	1	12.00	1	10.00	1	10.00			
3	1.15	31	30.00	9	10.00	10	10.00	12	10.00			
4	2.15	28	30.00	9	10.00	9	10.00	10	10.00			
5	3.15	19	32.00	10	10.00	8	10.00	3	12.00			
6	4.15	7	32.00	2	10.00	2	11.00	3	11.00			
7	5.15	14	30.00	4	10.00	6	10.00	4	10.00			
8	6.15	20	30.00	2	10.00	6	10.00	12	10.00			
9	7.15	30	30.00	10	10.00	11	10.00	9	10.00			
10	8.15	35	31.00	12	10.00	11	10.00	12	11.00			
11	8.15	33	30.00	10	10.00	11	10.00	12	10.00			
12	10.15	40	30.00	12	10.00	13	10.00	15	10.00			
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												

図 14 貫入試験入力画面

(5) 土質試験

シート名「土質試験」を選択すると、土質試験の入力画面が表示されます。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
	採取番号	採取方法	採取上層深度 (m)	採取下層深度 (m)	粒度組成シルト (%)	粒度組成砂 (%)	粒度組成シルト (%)	粒度組成粘土 (%)	土粒子径
1									
2	S-1	1 標準貫入試験	0.45	0.77					
3	S-2	1 標準貫入試験	2.15	2.45	37	50	10	3	
4	S-3	1 標準貫入試験	4.15	4.45		45	32	23	
5	S-4	1 標準貫入試験	5.15	5.45					
6	S-5	1 標準貫入試験	6.15	6.45					
7	S-6	1 標準貫入試験	8.15	8.45	42	40	18		
8	S-7	1 標準貫入試験	10.15	10.45					
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									

図 16 土質試験入力画面

採取方法の入力

採取方法の入力は、入力するセルにカーソルを移動してください。移動したカーソルのセル番号が自動的に入力されます。

次に、「採取方法」ボタンを押してください。

採取方法選択画面が表示されます。

次に、該当する採取方法を選択し、「選択」ボタンを押してください。

選択した採取方法コードが入力されます。

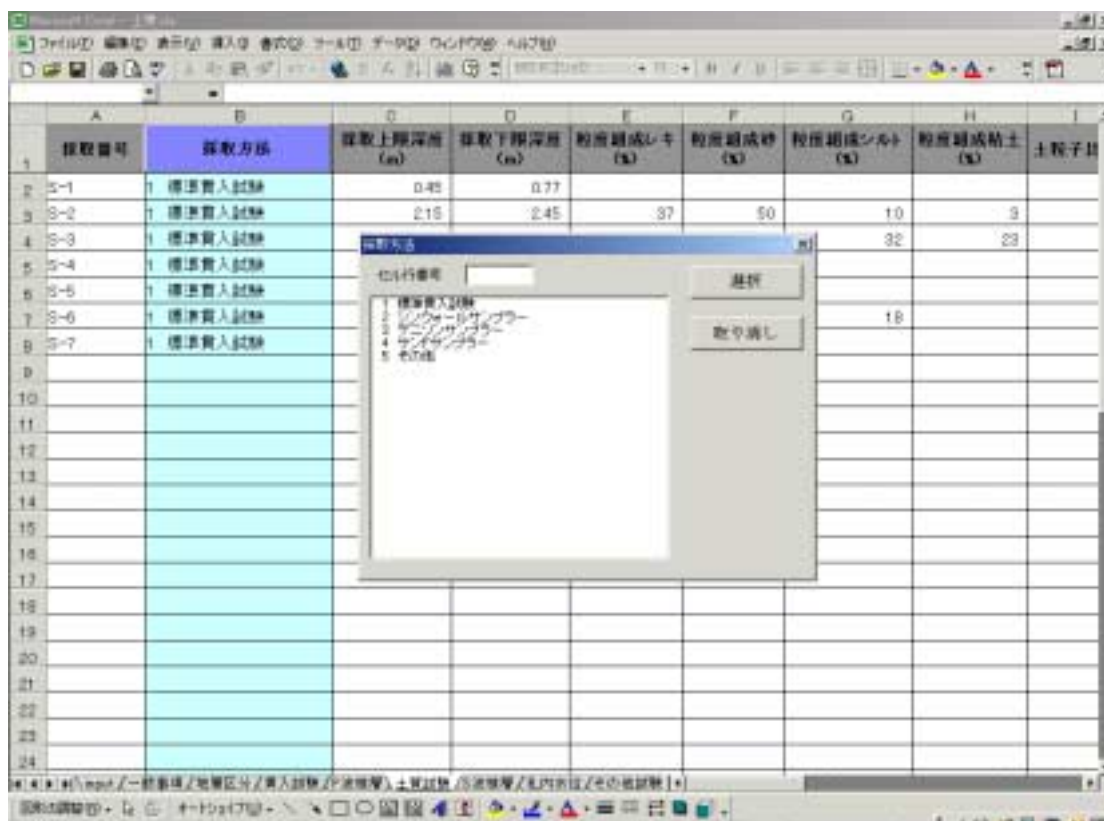


図 17 採取方法の入力画面

三軸試験条件の入力

三軸試験条件の入力は、入力するセルにカーソルを移動してください。移動したカーソルのセル番号が自動的に入力されます。

次に、「三軸試験条件」ボタンを押してください。

三軸試験条件選択画面が表示されます。

次に、該当する三軸試験条件を選択し、「選択」ボタンを押してください。

選択した三軸試験条件が入力されます。

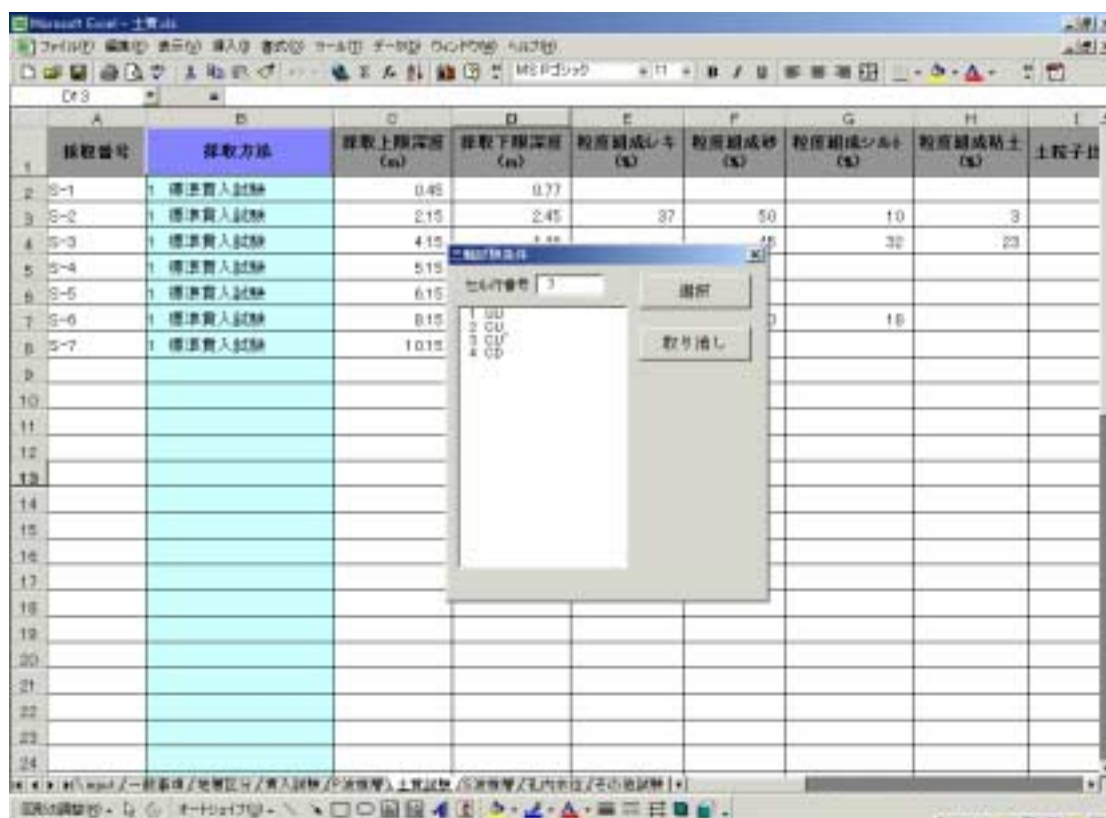


図 18 三軸試験条件の入力画面

(7) 孔内水位の入力

シート名「孔内水位」を選択すると、孔内水位の入力画面が表示されます。

測定月日の入力は、月(2桁) + 日(2桁)の合計4桁(半角)で入力してください。

例：1月1日 0101
 12月24日 1224

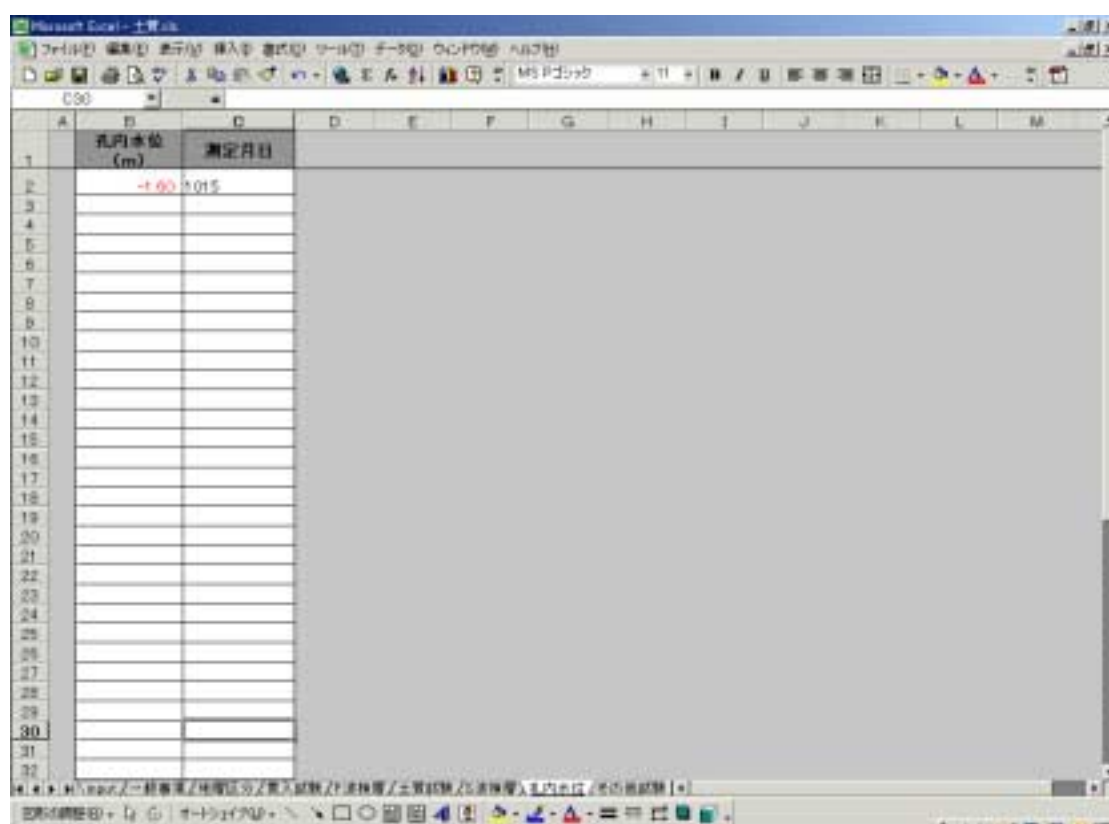


図 20 孔内水位入力画面

(8) その他試験の入力

シート名「その他試験」を選択すると、その他試験の入力画面が表示されます。

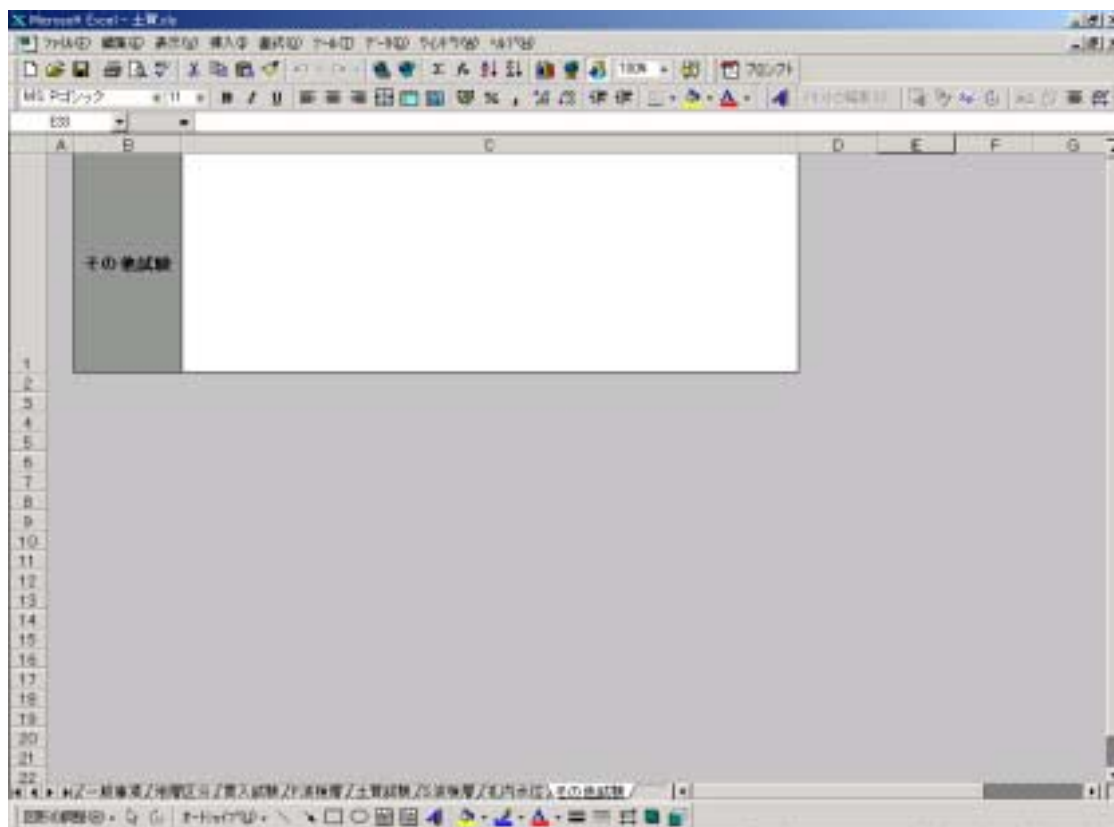


図 21 その他試験入力画面

ここに記載する内容に制限はありません。
他のシートで入力欄が用意されていない情報等を入力してください。

3 - 1 - 3 データのチェック

入力したデータのチェックを行います。

初期画面の「データチェック」ボタンを押してください。入力間違い等のチェックを行い、その内容を表示しますので、再度入力内容の確認を行ってください。

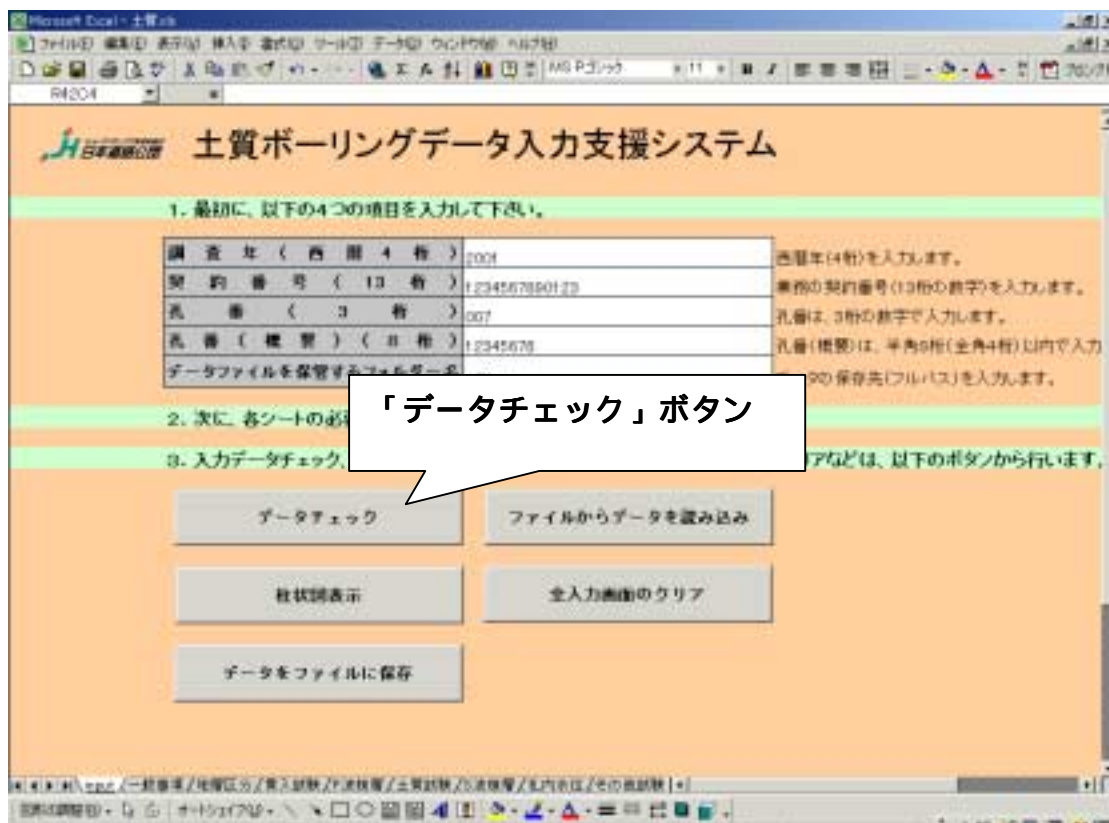


図 22 初期画面

3 - 1 - 4 柱状図表示

入力したデータをもとに、柱状図の表示を行います。

初期画面の「柱状図表示」ボタンを押してください。

柱状図が表示されますので、印刷等を行い、内容の確認を行ってください。

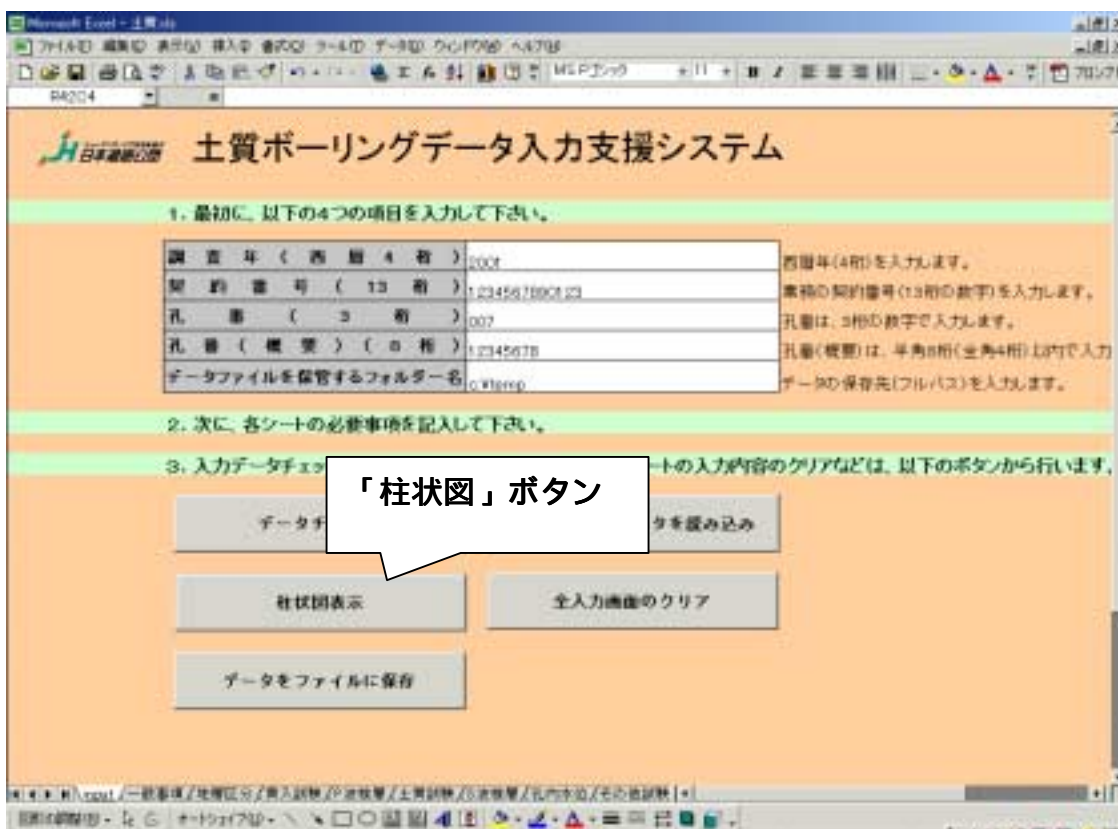


図 23 初期画面

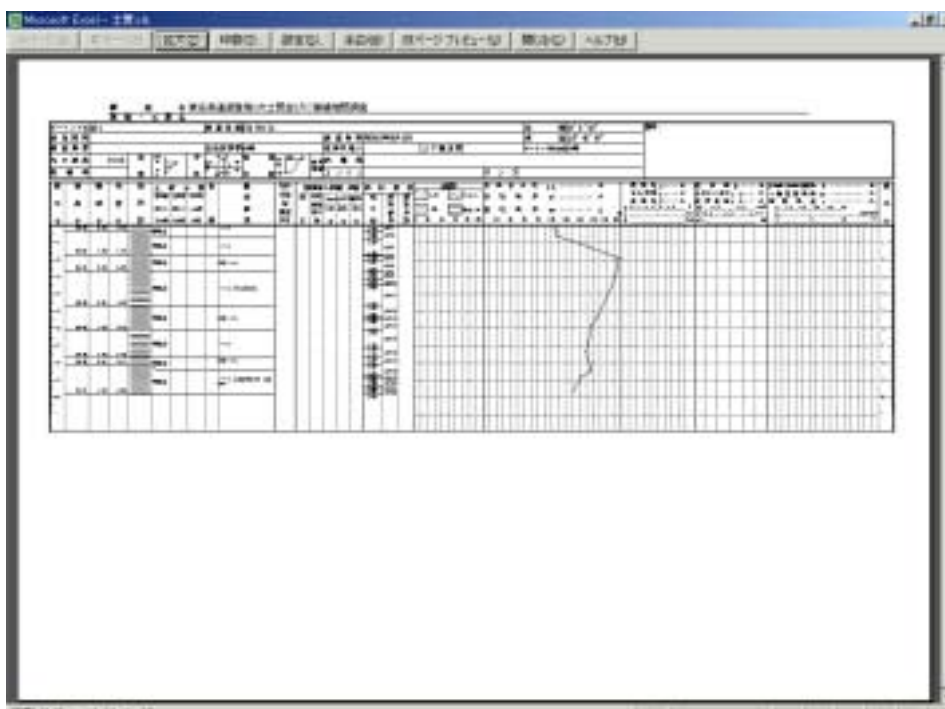


図 24 柱状図表示画面

なお、利用するパソコンに Acrobat などのソフトがインストールされている場合、表示した柱状図の PDF ファイルを作成することが可能です。

メニュー「ファイル」 - 「印刷」を選択し、プリンタの名前を設定（例：Acrobat PDFWriter）を行い、「OK」ボタンを押してください。

指定したフォルダに PDF ファイルが作成されます。

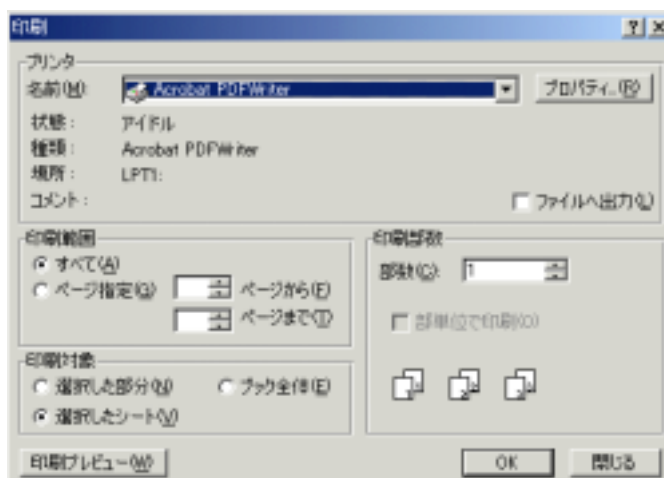


図 25 印刷設定画面

3 - 1 - 5 データをファイルに保存

データのチェックが終了したら、データをファイルに保存します。初期画面の「データをファイルに保存」ボタンを押してください。指定したフォルダー名にデータが保存されます。

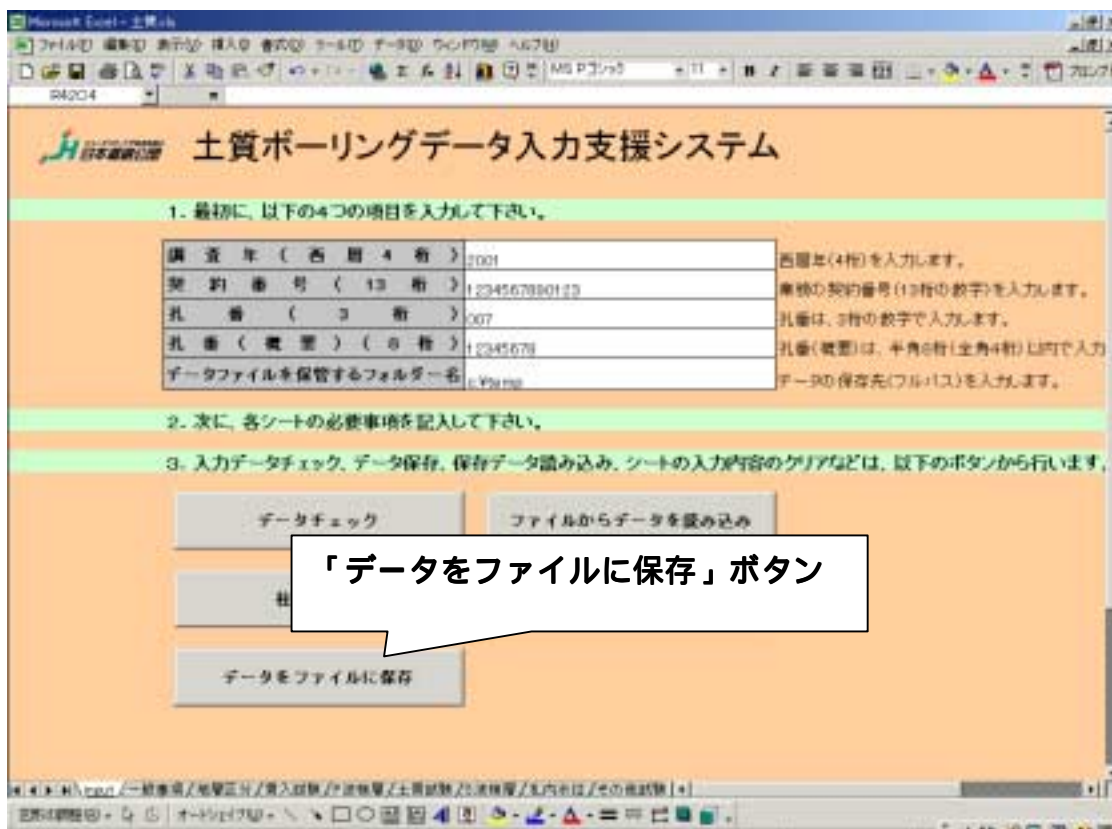


図 26 初期画面

3 - 1 - 6 全入力画面をクリア

入力した全てのデータをクリア（消去）します。

2回目の登録を続けて行われる場合等に利用してください。

初期画面の「全入力画面のクリア」ボタンを押してください。

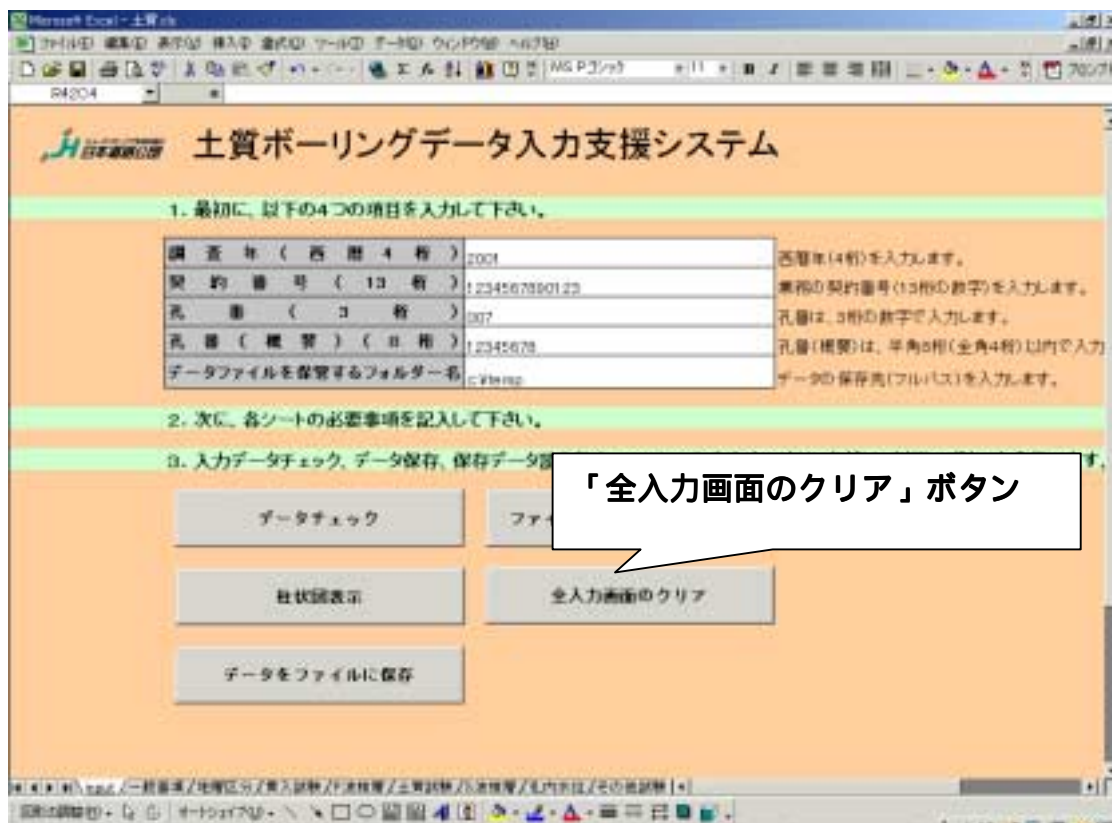


図 27 初期画面

3 - 1 - 7 ファイルからデータを読み込み

既に作成したファイルを再度読み込みます。

初期画面の「ファイルからデータを読み込み」ボタンを押してください。

読み込み画面が表示され、データを読み込みます。

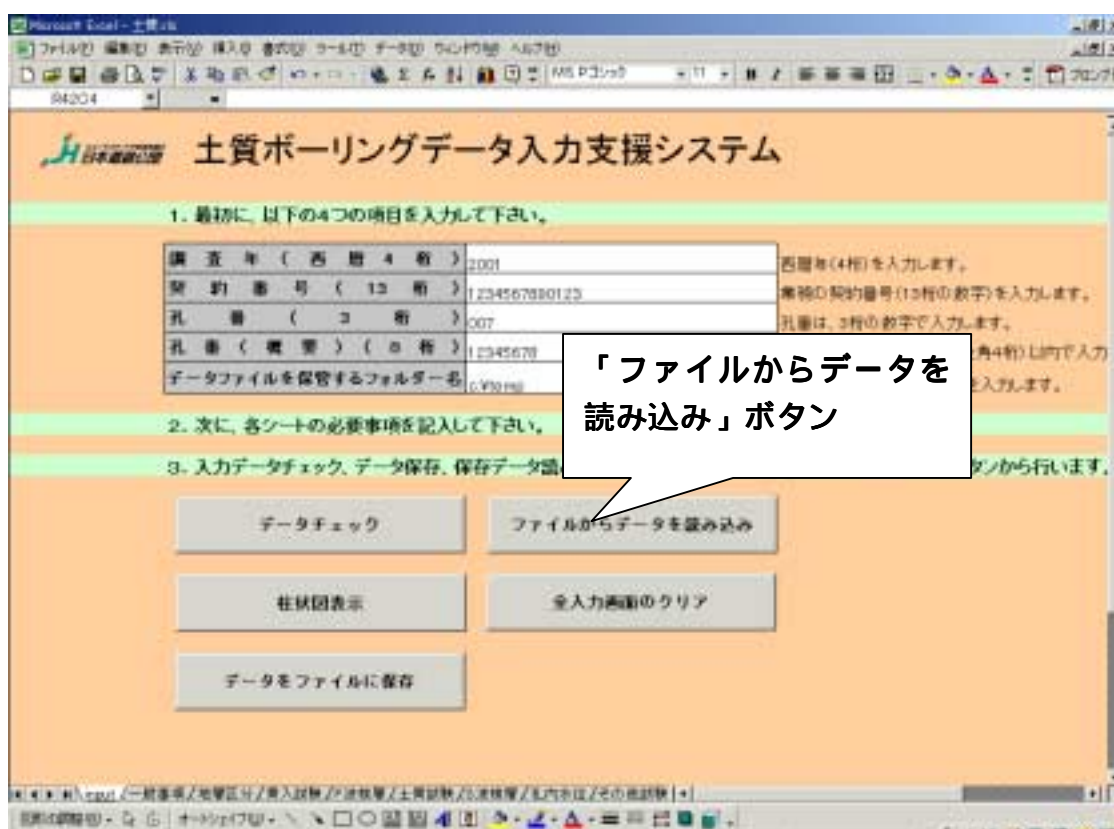


図 28 初期画面

3 - 2 岩盤用システム

3 - 2 - 1 システムの起動

土質用システム（P3）を参照してください。

3 - 2 - 2 データの入力

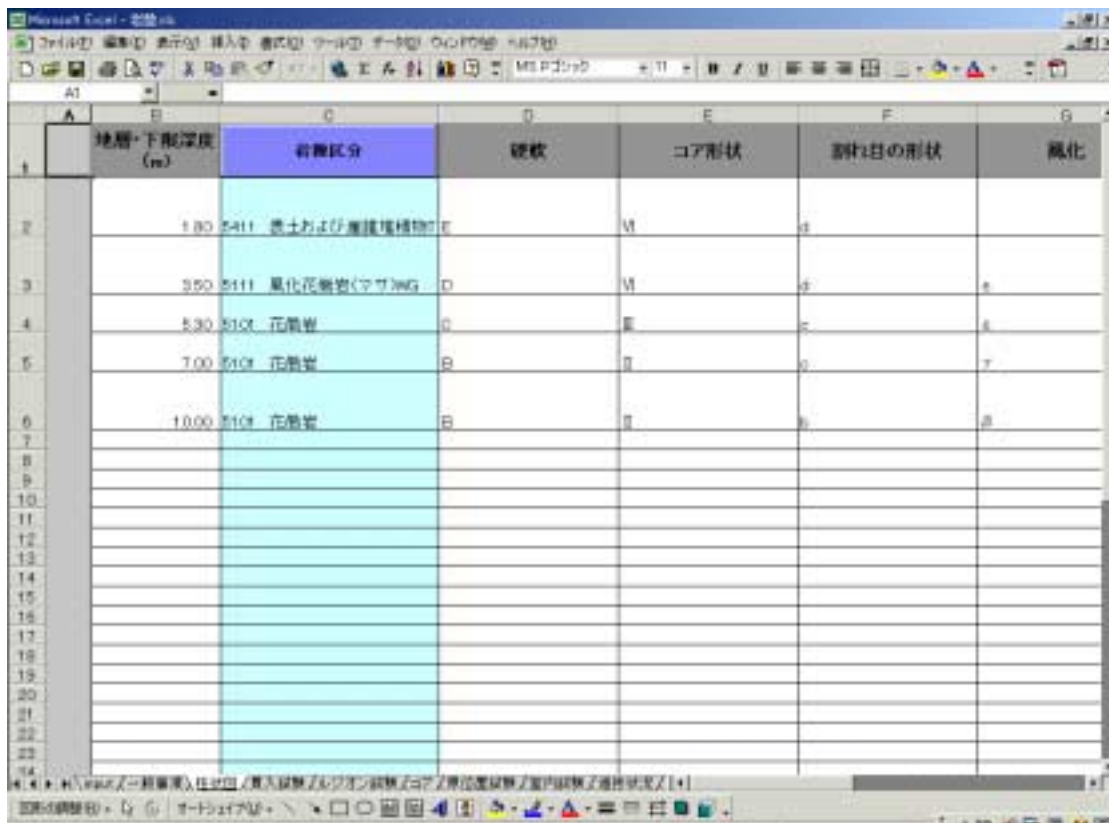
土質用システム（P4）を参照してください。

（ 1 ）一般事項の入力

土質用システム（P5）を参照してください。

(2) 柱状図の入力

シート名「柱状図」を選択すると、柱状図項目の入力画面が表示されます。



	A	B	C	D	E	F	G
1		地層・下層深度 (m)	岩種区分	硬軟	コア形状	割付口の形状	風化
2		1.80	S411 黄土および重質堆積物	D	VI	円	
3		3.50	S411 風化花崗岩(アサノG)	D	VI	円	軽
4		8.30	S101 花崗岩	D	III	円	軽
5		7.00	S101 花崗岩	B	II	円	ア
6		10.00	S101 花崗岩	B	II	円	軽
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							

図 29 柱状図入力画面

岩種区分の入力

岩種区分の入力は、入力するセルにカーソルを移動してください。移動したカーソルのセル番号が自動的に入力されます。

次に「岩種区分」ボタンを押してください。

岩種区分選択画面が表示されます。

次に、該当する岩種区分を選択し、「選択」ボタンを押してください。

選択した岩種区分が入力されます。

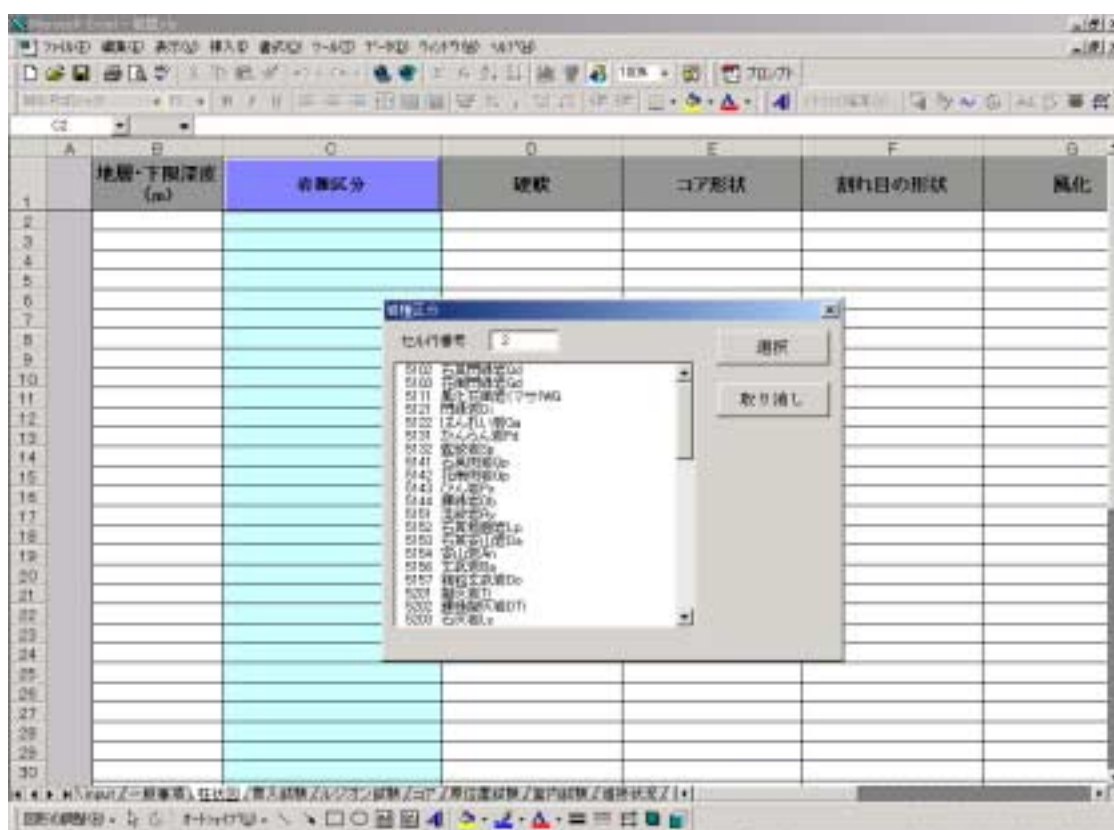


図 30 採取方法の入力画面

なお、該当する岩種区分が存在しない場合は、空欄とし、自由記入欄にその内容を記入してください。

色調コードの入力

色調コードの入力は、入力するセルにカーソルを移動してください。移動したカーソルのセル番号が自動的に入力されます。

次に、「色調コード」ボタンを押してください。

色調コード選択画面が表示されます。

次に、該当する色調コードを選択してください。

選択した色調コードおよび色調名が表示されます。

選択後、「選択」ボタンを押してください。

選択した色調コードが入力されます。

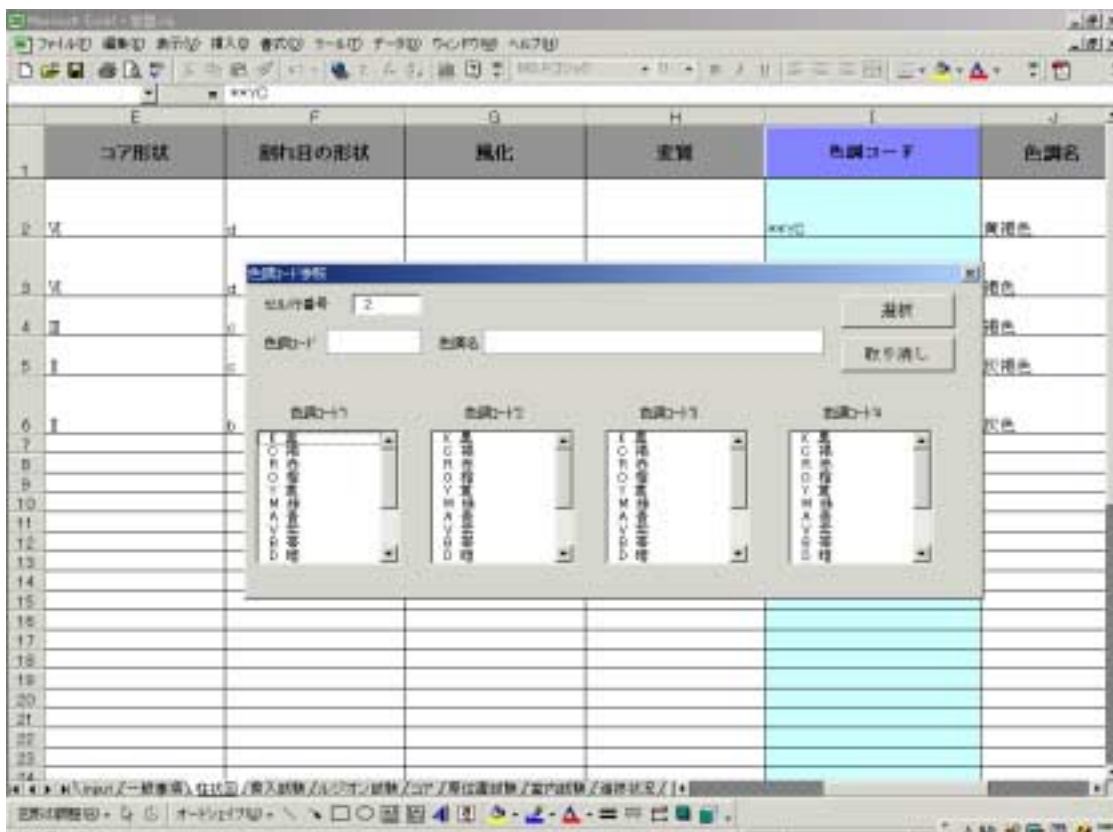


図 31 色調コードの入力画面

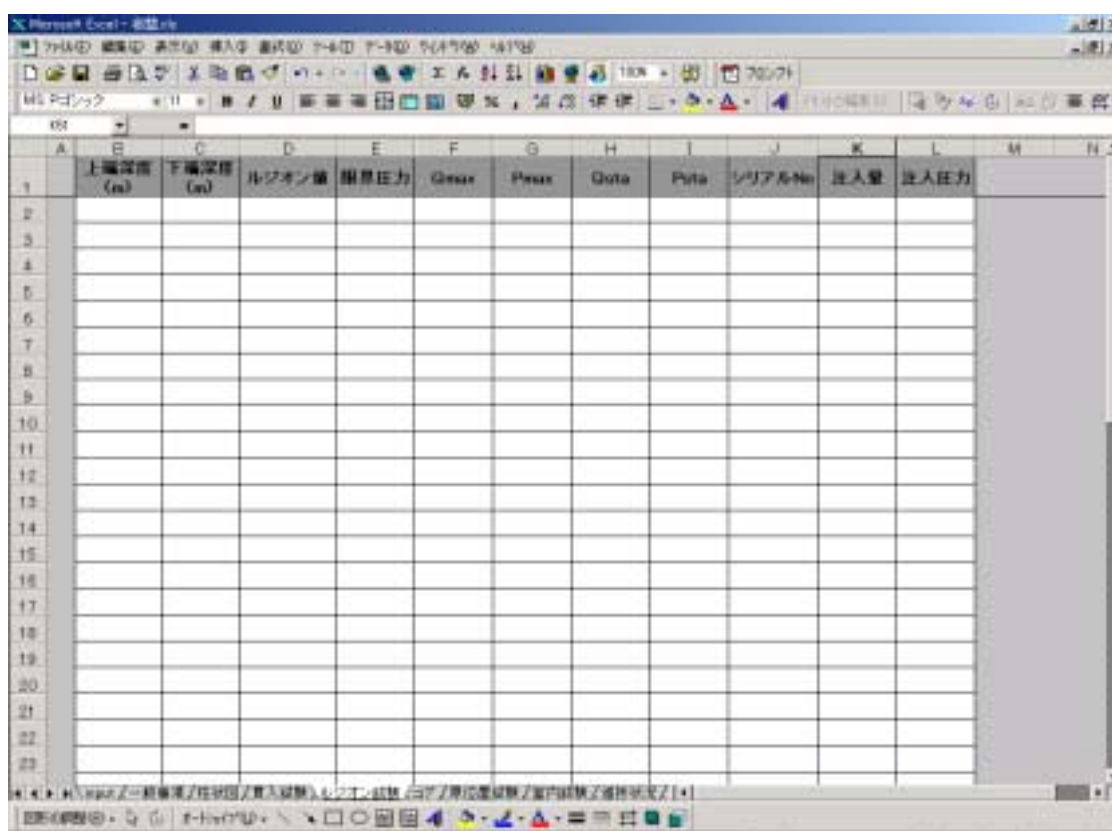
なお、該当する色調コードが存在しない場合は、空欄とし、自由記入欄にその内容を記入してください。

(3) 貫入試験の入力

土質用システム (P17) を参照してください。

(4) ルジオン試験の入力

シート名「ルジオン試験」を選択すると、ルジオン試験の入力画面が表示されます。



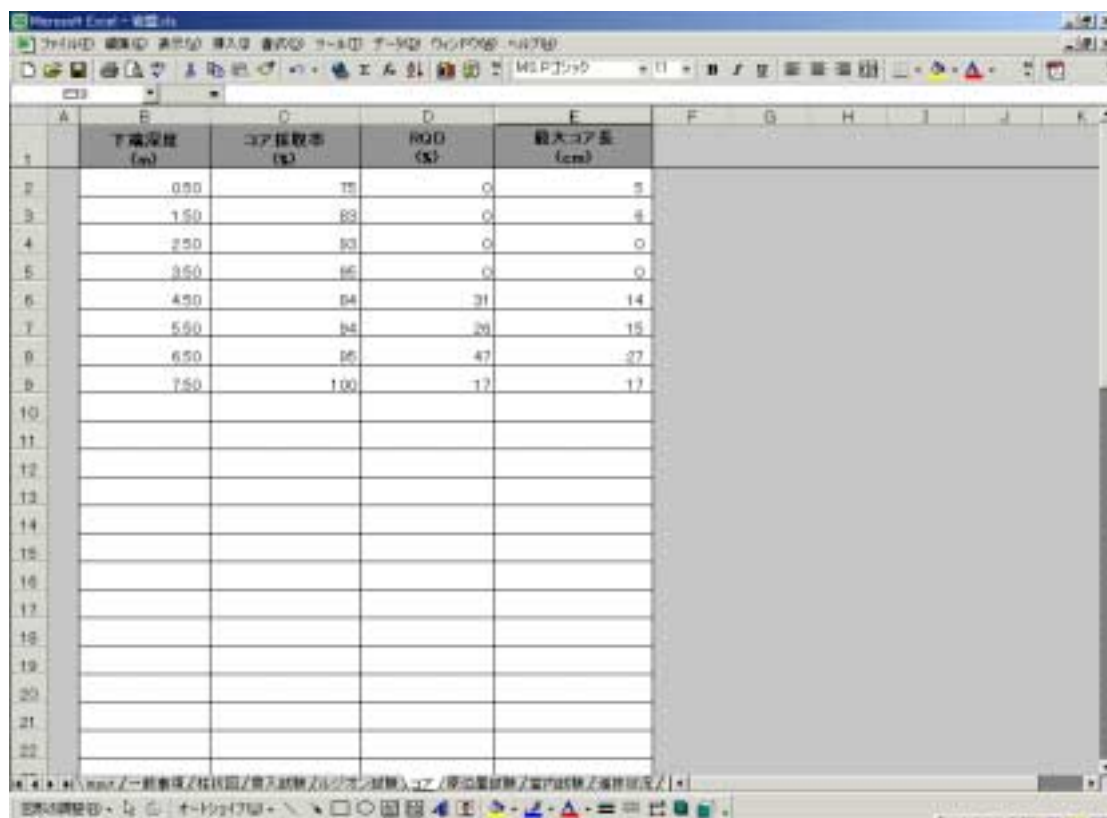
The image shows a Microsoft Excel spreadsheet titled 'ルジオン試験' (Luzion Test). The spreadsheet has columns labeled A through N and rows numbered 1 through 23. The header row (row 1) contains the following labels: A: (blank), B: 上端深さ (m) (Upper depth (m)), C: 下端深さ (m) (Lower depth (m)), D: ルジオン値 (Luzion value), E: 限界圧力 (Limit pressure), F: Gear, G: Peas, H: Qota, I: Pota, J: シリアルNo (Serial No), K: 注入量 (Injection amount), L: 注入圧力 (Injection pressure), M: (blank), N: (blank). The rest of the spreadsheet is empty.

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1		上端深さ (m)	下端深さ (m)	ルジオン値	限界圧力	Gear	Peas	Qota	Pota	シリアルNo	注入量	注入圧力		
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														

図 32 ルジオン試験入力画面

(5) コア試験の入力

シート名「コア」を選択すると、コアの入力画面が表示されます。



	E	O	O	E						
1	下層深さ (m)	コア採取率 (%)	RQD (%)	最大コア長 (cm)						
2	0.50	15	0	5						
3	1.50	83	0	8						
4	2.50	80	0	0						
5	3.50	66	0	0						
6	4.50	84	31	14						
7	5.50	84	29	15						
8	6.50	86	47	27						
9	7.50	100	12	12						
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										

図 33 コア入力画面

(6) 原位置試験の入力

シート名「原位置試験」を選択すると、原位置試験の入力画面が表示されます。

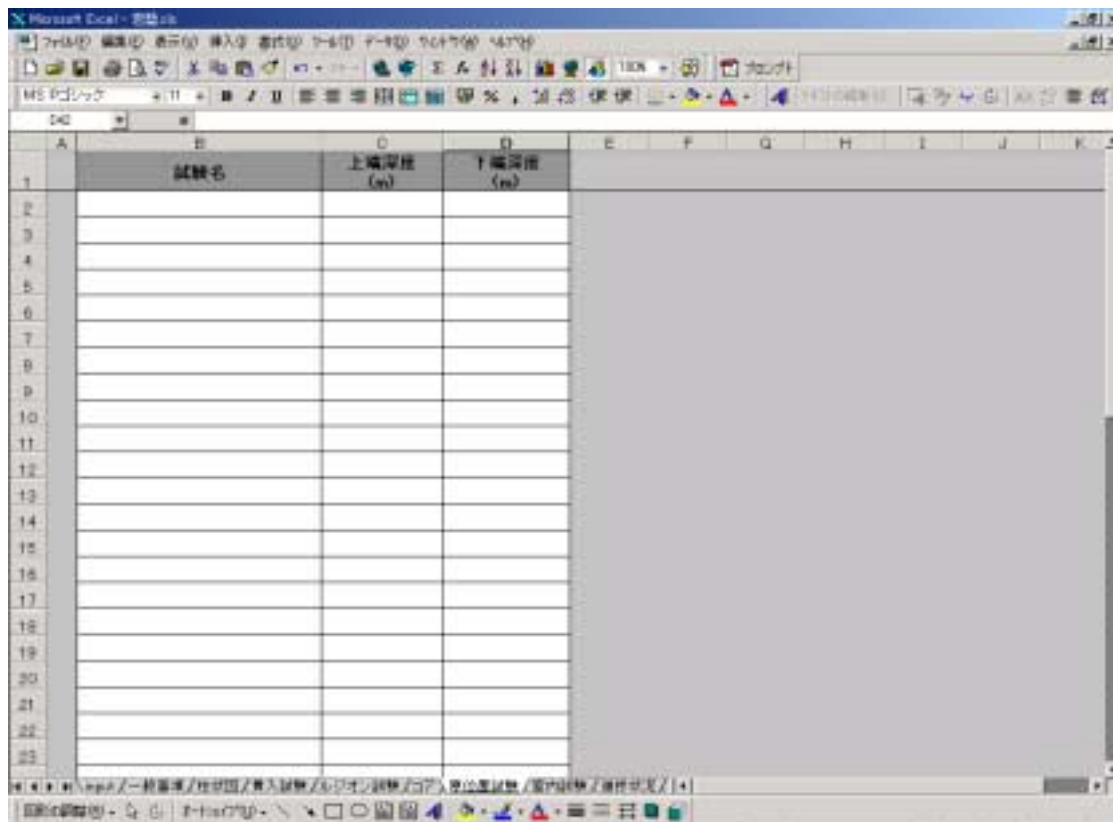


図 34 原位置試験入力画面

(8) 進捗状況の入力

シート名「進捗状況」を選択すると、進捗状況（掘進等）の入力画面が表示されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1		下掘深 (m)	掘進日付	掘進速度 (cm/時)	掘削水の種類	圧力 (kg/cm ²)	回転数 (rpm)	送水圧 (kg/cm ²)	送水量 (L/分)	空気量 (L/分)	孔径 (mm)	孔壁保護	コア寸
2		1.80	1010	80.00		100	120.00	0.00	0.00	0.00	86.00		
3		3.50	1010	120.00		100	120.00	0.00	0.00	0.00	86.00		
4		5.30	1011	200.00		150	320.00	10.00	80.00	5.00	86.00		
5		7.00	1011	180.00		150	330.00	10.00	40.00	5.00	86.00		
6		10.00		150.00		200	350.00	10.00	30.00	15.00	86.00		
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
22													
23													
24													

図 36 進捗状況入力画面

(9) 孔内水位の入力

土質用システム（P23）を参照してください。

(10) 自由記入欄の入力

シート名「自由記入欄」を選択すると、自由記入欄の入力画面が表示されます。

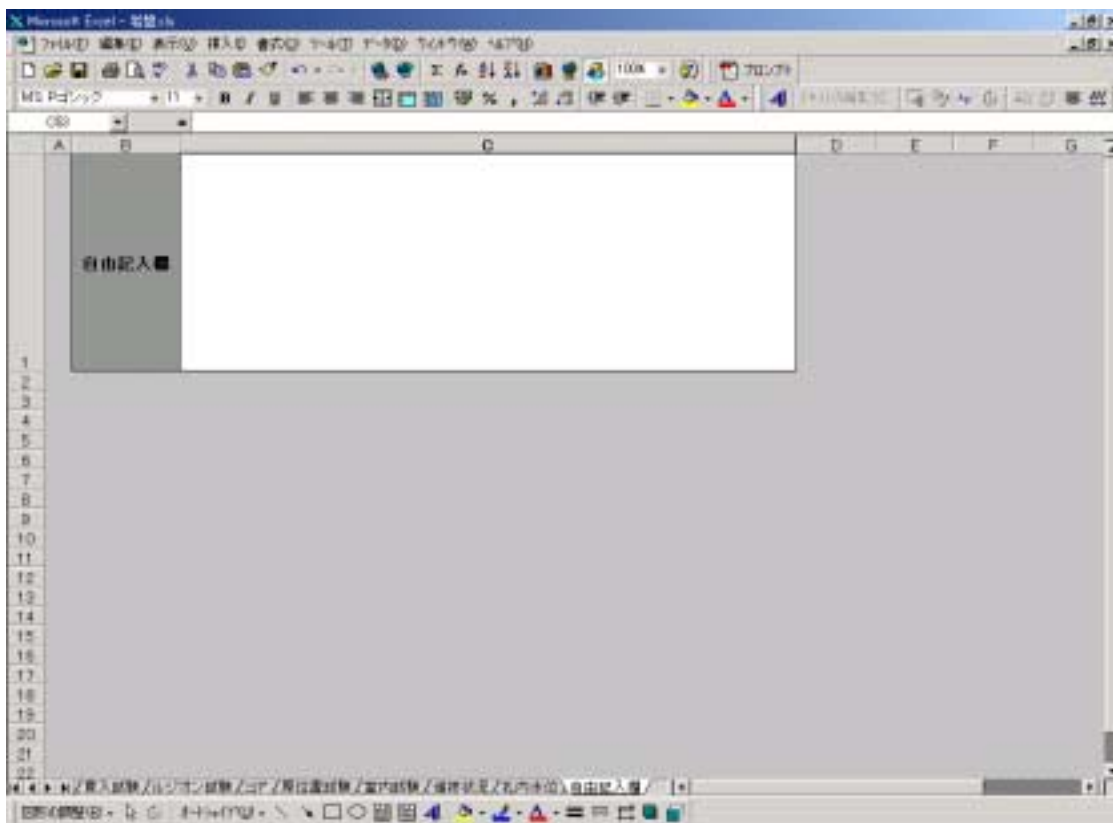


図 37 自由記入欄入力画面

ここに記載する内容に制限はありません。

岩級区分や色調コードの選択肢に該当するものが存在しない場合の補足情報、一緒に行った土質ボーリングの情報、その他の試験結果の情報など、本調査に関連する情報を自由に入力してください。

3 - 2 - 3 データのチェック

土質用システム (P25) を参照してください。

3 - 2 - 4 柱状図表示

土質用システム (P26) を参照してください。

3 - 2 - 5 データをファイルに保存

土質用システム (P28) を参照してください。

3 - 2 - 6 全入力画面をクリア

土質用システム (P29) を参照してください。

3 - 2 - 7 ファイルからデータを読み込み

土質用システム (P30) を参照してください。